

東 部 拠 点 の ま ち づ ぐ り 計 画  
（ 基 本 構 想 ）

平成 20 年 1 月

（2008 年）

吹 田 市

## はじめに

昭和59年に吹田操車場の機能が停止されて以来、23年の時を経て、いよいよその跡地利用の大プロジェクトがスタートいたしました。「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点」の創出という基本理念のもと、市民のこれまでの想いとこれからの期待を乗せて、21世紀にふさわしい新しいまちづくりが始まったのです。市は、この地を市の東の玄関口となる東部拠点として位置づけ、先進的な環境都市モデルを創出し、持続可能な都市として世界に発信できるようなまちづくりを進めてまいります。

望ましいまちづくりの方向性については、各界のオピニオンリーダーからなる「吹田操車場跡地まちづくり計画委員会」「吹田操車場跡地まちづくり促進協議会」においてもご議論いただき、平成19年（2007年）6月に「吹田操車場跡地まちづくり全体構想」（以下、「全体構想」）としてまとめていただきました。

これを受け、市の既存の行政計画や施策の方向性との整合や、新たな政策展開の可能性を検討するために、市内にまちづくりを総合的に進める組織を設置し、全体構想で示された基本的な構想を、より具体像に近づける作業を行ってまいりました。

また、幅広い市民の参画による協働のまちづくりを進めるために設置いたしました「東部拠点のまちづくり市民フォーラム」は、市民自らが運営を行うという協創の取組により、広く市民のみならずみなさまのご参加いただき、多様な意見を活発に交換する場としていただきました。

今後、東部拠点でのまちづくりを進めるにあたりまして、その基本的な構想を行政計画として定めたものが、この「東部拠点のまちづくり計画（基本構想）」です。本計画は、全体構想で示された専門家の視点によるまちづくりの方向性を基本として、議会からいただいた貴重なご意見や、市民フォーラムよりご提案いただいた市民の視点を反映して策定したものです。また、市民のみならずみなさまの思いを正確にお伝えするために、市民フォーラムの報告書を資料編に原文のまま掲載いたしました。

今後、本計画に基づきアイデア募集コンペを実施し、さらなるアイデアを募ることで計画の熟度を高め、「東部拠点のまちづくり計画（基本計画）」を策定し、「環境世界都市すいた」のリーディングモデルを実現するにふさわしい機能や施設の導入を図ってまいります。

平成20年（2008年）1月

吹田市長 阪口 善雄

## 本書の構成

「東部拠点のまちづくり計画（基本構想）」は、「吹田操車場跡地まちづくり全体構想」（以下、「全体構想」）で示された専門家の視点によるまちづくりの方向性を基本として、議会からいただいた貴重なご意見や、東部拠点のまちづくり市民フォーラム（以下、「市民フォーラム」）よりご提案いただいた生活者の視点を反映し、今後東部拠点のまちづくりを進める上での基本的な構想をとりまとめたものです。

第 1 部は、各界のオピニオンリーダーからなる「吹田操車場跡地まちづくり計画委員会」「吹田操車場跡地まちづくり促進協議会」においてご議論いただき、平成 19 年 6 月にまとめていただきました全体構想を掲載し、望ましいまちづくりの方向性を示しました。

第 2 部は、全体構想の考え方に沿って、これまで市議会においていただいた貴重な意見や、市民の声を反映したものです。とりまとめる際に、市の既存の行政計画や施策の方向性との整合や、新たな政策展開の可能性を検討するために、市内にまちづくりを総合的に進める組織を設置し、全体構想で示された基本的な構想を、より具体像に近づける作業を行いました。

資料編として、市民フォーラムが作成した「まちづくり将来ビジョン中間報告」を掲載しました。これは、市民自らがフォーラムの運営を行うという新しい協創の取組により、広く市民のみなさまのご参加をいただき、多様な意見を活発に交換していただいた経過を、市民自らがまとめられた報告書であり、市民のみなさまの想いを正確にお伝えするために原文のまま掲載しました。

# 目 次

## ■はじめに

## ■本書の構成

### ■第 1 部 吹田操車場跡地まちづくり全体構想・・・1

- ・はじめに・・・1
- ・吹田操車場跡地まちづくり計画委員会名簿・開催経過・・・2
- ・I 章 吹田操車場跡地及び周辺の歴史・・・3
- ・II 章 関連する上位計画・・・5
- ・III 章 周辺地域の特性・・・25
- ・IV 章 まちづくりの基本方向・・・36
- ・V 章 まとめ・・・44
- ・資料編 吹田操車場跡地まちづくり促進協議会での検討結果・・・49

### ■第 2 部 東部拠点のまちづくりの実現に向けて・・・55

- ・I 章 東部拠点のまちづくりにおける基本的な考え方・・・55
- ・II 章 環境先進モデルの実現・・・58
- ・III 章 緑と水につつまれた空間の創出・・・61

### ■資料編・・・62

- ・東部拠点のまちづくり市民フォーラム将来ビジョン 中間報告・・・62
- ・東部拠点整備事業等に関する庁内連絡調整会議 設置要項・・・74
- ・東部拠点整備事業等に関する庁内連絡調整会議作業部会 設置要項・・・74
- ・東部拠点整備事業等に関する庁内連絡調整会議等における検討経過等・・・75

## 第1部

# 吹田操車場跡地まちづくり全体構想

## はじめに

### ～「吹田操車場跡地まちづくり全体構想」の策定にあたって～

吹田操車場跡地におけるまちづくりは、操車場機能が廃止されて以来、四半世紀にわたり重ねてきた粘り強い関係機関との協議、調整を経て、ようやく具体化に向けてのスタートを切ることができました。この地には、これまでの市民の熱い想いがこもっていると同時に、今の市民の大きな期待と、未来の市民に受け継ぐ財産としての夢が込められています。

吹田、摂津の両市にとって一大事業であるこのプロジェクトを、歴史に残る素晴らしいものとして結実させるためには、行政のみならず市民、専門家、経済界などの知恵を集め、50年、100年後の姿にも想いを馳せながら21世紀にふさわしいまちづくりを実現しなければなりません。

「吹田操車場跡地まちづくり計画委員会」は、本プロジェクトの今後の方向性を示すために両市により設置されたもので、様々な角度からの議論を経て、まちづくりの望ましい姿を「吹田操車場跡地まちづくり全体構想」としてまとめました。併せて「吹田操車場跡地まちづくり促進協議会」を設置し、両市の「まちづくり計画」を力強く推進する体制を整備いたしました。

吹田操車場跡地は、その立地と規模、交通利便性、周辺地域に集積する「知」の財産など、極めて高いポテンシャルを持っています。この地で生まれる新しいまちが、時を経て腐葉土豊かな成熟したまちとなるよう、本構想で示した理念を踏まえ、両市は今後「まちづくり計画」を策定し、「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点」の実現に向けて、取り組んでいくことになります。

本構想を契機に、更に多くみなさまに吹田操車場跡地のまちづくりに関心を持っていただければ幸いです。

平成19年（2007年）6月

吹田操車場跡地まちづくり計画委員会

会長 阪口 善雄（吹田市長）

副会長 森山 一正（摂津市長）

副会長 林 紀夫（大阪大学医学部附属病院長）

## 吹田操車場跡地まちづくり計画委員会 名簿

委員	大阪大学医学部附属病院 病院長	林 紀 夫	副会長
	大阪大学大学院 国際公共政策研究科 教授	山内 直人	
	関西大学 環境都市工学部 教授	江川 直樹	
	関西経済連合会 専務理事	向井 利明	
	大阪国際文化協会 会長	高橋 叡子	
	都市生活研究所 代表取締役社長	篠崎 由紀子	会計監査
	国土交通省近畿地方整備局 局長	布村 明彦	
	大阪府副知事	梶本 徳彦	
	吹田市長	阪口 善雄	会長
	摂津市長	森山 一正	副会長
アドバイザー	大阪大学 名誉教授	荻原 俊男	
オブザーバー	都市再生機構西日本支社 支社長	嶋田 征次	
	鉄道建設・運輸施設整備支援機構 国鉄清算事業本部 理事	松岡 和夫	
	日本貨物鉄道 常務取締役関西支社長	宮澤 幸成	

(旧委員)

荻原 俊男（大阪大学医学部附属病院 病院長）平成 19 年（2007 年）3 月 31 日まで

## 吹田操車場跡地まちづくり計画委員会 開催経過

第 1 回 平成 18 年(2006 年)11 月 20 日(月) 10:30-12:00 ホテル阪急エキスポパーク

内 容：会長の選出／今後の進め方の説明／「吹田操車場跡地のまちづくり概要」の説明  
／意見交換

第 2 回 平成 19 年(2007 年) 2 月 21 日(水) 14:00-16:00 ホテル阪急エキスポパーク

内 容：「吹田操車場跡地まちづくり全体構想（素案）」について／意見交換

第 3 回 平成 19 年(2007 年) 5 月 10 日(木) 14:00-16:00 吹田商工会議所会議室

内 容：吹田操車場跡地まちづくり計画委員会設置要項の変更について／「吹田操車場跡地まちづくり全体構想（素案）」について／市民意見について／コンペのあり方について

## I. 吹田操車場跡地及び周辺の歴史

### ■古代～近世

吹田操車場跡地は、千里丘陵裾野に広がる平野部に位置し、古墳時代（5世紀前半から7世紀初頭）には北方の一带（片山、岸部から佐井寺、山田にかけて）で須恵器の生産が盛んであった。現在の紫金山公園内には吉志部古墳があり、この頃に造られたと考えられている。また、8世紀前半には、難波宮や平安京の造営に用いられた瓦の生産地であった。

跡地の西部には、大阪方面から茨木方面につながる亀岡街道があり、古くから交通の要衝であった。

中世から近世にかけては、大都市の大阪に近いこの地域は水田や畑が広がり、新鮮な野菜の供給地としての役割を果たしていた。江戸時代には、吉志部、七尾などの集落が点在し、産土神としての吉志部神社がある。現在の吉志部神社の本殿は慶長15年(1610年)の再建であり、国の重要文化財に指定されている。

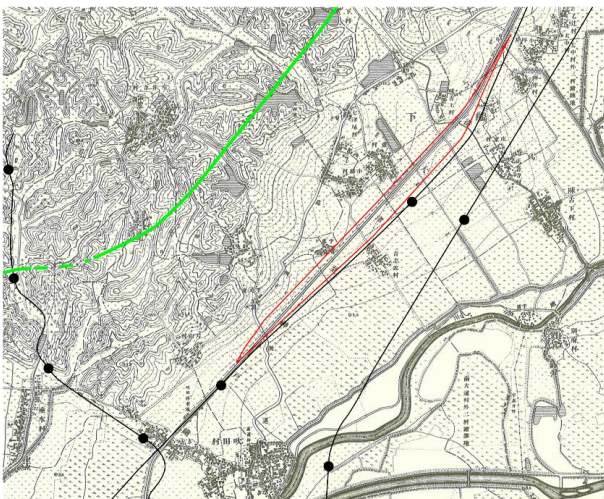


七尾瓦窯跡（岸部北）

### ■近代

明治9年（1876年）大阪一向日町間の鉄道が開通、同年吹田駅も開業した。東海道本線は、明治22年（1889年）に東京―神戸間が全通、明治24年（1891年）に有限会社大阪麥酒會社吹田村醸造所（現アサヒビール吹田工場）が建設された。

大正時代になると、第一次世界大戦の軍需等により急速に進む産業の近代化の中で貨物の輸送量が増大し、計画地が貨物操車場として整備されることとなった。大正8年（1919年）吹田貨物操車場の建設に着手し、大正12年（1923年）に操業を開始した。昭和時代になると、貨車量の増大による拡張工事が繰り返され、昭和18年（1943年）には、1日あたり8,000両の貨車取扱能力を有する東洋一の操車場となった。また、千里丘駅については昭和13年（1938年）、岸辺駅は、昭和22年（1947年）に開業している。



明治18年吹田村地形図



吹田操車場操業当時（大正12年）



## ■現 代

戦後、大阪都市圏への人口集中が進む中、昭和 35 年（1960 年）には、大量の住宅供給を目的として千里ニュータウンの開発が始まり、その都市基盤施設として昭和 39 年（1964 年）に大阪府企業局により正雀下水処理場が吹田操車場に隣接して整備された。当処理場の所在地は摂津市域であるが、昭和 48 年（1973 年）に吹田市に有償譲渡された。

昭和 59 年（1984 年）には、鉄道に代わる陸上輸送としてトラックによる輸送が進展したことに伴い、従来の操車を伴う貨車輸送からコンテナを利用した貨物輸送に転換されたことにより吹田操車場は廃止された。昭和 62 年（1987 年）には、旧国鉄が梅田貨物駅機能を廃止し、その機能を吹田操車場跡地に全面移転する計画を打ち出した。その後、大阪府、吹田・摂津両市、旧国鉄清算事業団（現鉄道建設・運輸施設整備支援機構）および JR 貨物との間で移転にともなう環境対策や貨物取扱量、まちづくり可能用地などについて協議・交渉を行った結果、平成 11 年（1999 年）1 月に梅田貨物駅の半分の機能を移転させることなどを盛り込んだ「梅田貨物駅の吹田操車場跡地への移転計画に関する基本協定書」を関係 5 者間で交わした。

この基本協定書に基づき、平成 11 年（1999 年）12 月から足掛け 7 年間に及ぶ環境影響評価の手続きが進められ、貨物駅建設に伴う周辺地域への万全の環境対策が約束されたことなどから、平成 18 年（2006 年）2 月 10 日に「吹田貨物ターミナル駅（仮称）建設事業に関する着手合意協定書」を関係 5 者間で交わした。

これにより、新たなまちの誕生に向けた取り組みが本格的に始動した。



現在の吹田操車場跡地

## Ⅱ. 関連する上位計画

### 1. 都市計画や土地利用に関する計画

#### (1) 都市計画や土地利用に関する上位計画における吹田操車場跡地の位置づけ

大阪府国土利用計画（第三次） 平成 13 年(2001 年)10 月決定

- 主要な交通結節点や駅前地区等を中心として複合機能を備えた都市核の形成

吹田市第 3 次総合計画 基本構想

平成 18 年(2006 年)3 月決定

- 地域の新しい未来を切り開くまちづくりに向けて、市民、事業者の参画の下で協働により取り組む

摂津市総合計画

平成 7 年(1995 年)3 月決定

- スポーツ・レクリエーション施設など、市民ニーズを取り入れた広域的な利用を検討

北部大阪都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）

平成 16 年(2004 年)4 月施行

- 貴重な都市空間として有効な土地利用を行い、良好な市街地の形成をはかる「都市拠点」として位置づけられている

吹田市都市計画マスタープラン

平成 16 年(2004 年)3 月策定

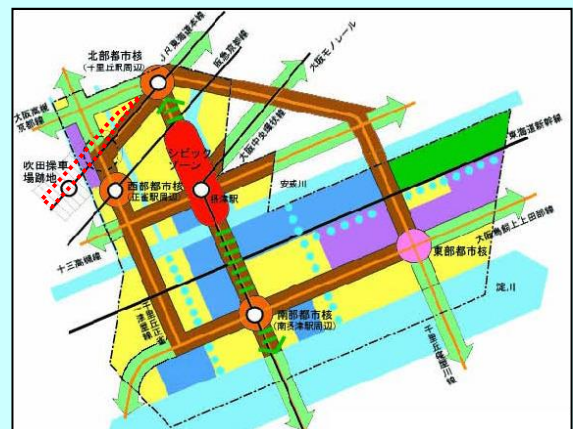
- 本市と地域の未来をひらく魅力的な環境創造をリードする拠点



摂津市都市計画マスタープラン

平成 12 年(2000 年)2 月策定

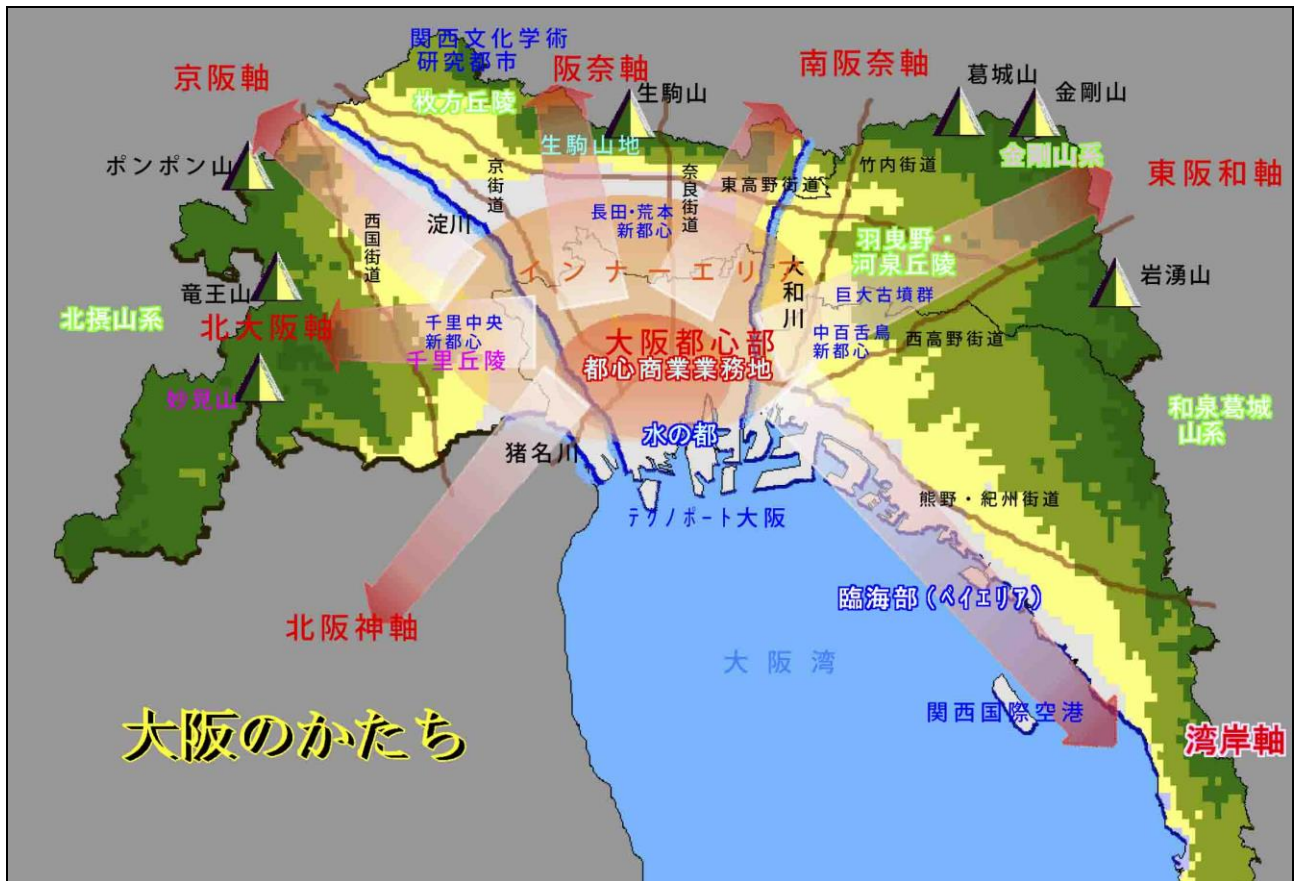
- 将来的な都市拠点としての整備も視野に入れ、隣接市とも連携した土地利用を検討



## (2) 大阪府国土利用計画（第三次）（平成 13 年（2001 年）10 月、大阪府）

大阪府国土利用計画（第三次）は、国土利用計画法第 7 条の規定に基づき、大阪府の区域における国土の利用に関して必要な事項を定めたものであり、大阪府土地利用基本計画及び府内の市町村がその区域について定める国土の利用に関する計画（市町村計画）等の基本となるものである。

この中で、「大阪のかたち」として、まちづくりのテーマごとに地域特性に応じて以下の方向性が打ち出されている。



「大阪のかたち」

### ① 都市環境との持続的共生

- ・都市と自然が持続的に共生していくために、環境負荷のより少なく、循環型のシステムを備えた効率的なまちづくりと、その維持・管理手法を検討していく。
- ・大阪府広域緑地計画に基づいて、周辺山系軸・中央環状軸・河川軸・大阪湾岸軸を基軸にみどりをまもり・ふやし・つなぎ・ひろげていく。

### ② 魅力ある都市環境の創造

#### ○個性豊かな地域ブロックの形成

- ・都市の魅力や活力を高めつつ、生活環境の持続的な向上のために、多様な機能が、それぞれの生活圏に応じて効率的に確保されるとともに、温暖化など地球環境への影響も軽減され、エネルギー効率上も有利な循環システムを備えたコンパクトで個性豊かな地域ブロックの形成をめざしていく。
- ・都心居住機能の回復、職住近接の復活、産業の活性化、教育・福祉・文化・レクリエーシ

- ョン機能などの充実を図り、都市の再生を進める。
- また、高度な都市活動を支えていくために、機能的な道路・街路などの整備を行うとともに、交通需要マネジメントなどへの取り組みにより、環境に配慮した、円滑で効果的な都市交通体系の形成を進めていく。
  - 特に、日々の生活の基礎となる日常生活圏については、コンパクトな地域ごとに安心してサービスや都市機能が享受できる基盤や施設の整備を進めるとともに、高齢社会とライフスタイルの変化を踏まえた多様な住まいの形成を図る。
  - 各市町村の駅前などの中心市街地については、人口回復や商業の活性化を導くよう、生活・サービス拠点や交流・コミュニケーションの場としての都市機能を確保するよう整備を図る。
  - 広域的な地域の核となる都市拠点については、地域性を活かしながら、商業・業務・福祉・医療・文化などの複合的機能を、高度化し集積するなどにより整備を図る。
  - 特に、インナーエリア（大阪市外縁部及びその周辺に広がる密集市街地）については、交通利便性が高く、都心に近いという特性を活かし、職住近接の魅力ある多様な都市居住を推進していく。このため、街路等の都市基盤整備、木造建築物が密集する地域の住宅の共同化・協調化、地域のイメージアップを促す良質な中高層の集合住宅と計画的かつ集合的な都市型戸建住宅の供給、建築物の不燃化・耐震化の促進などにより、災害に対する安全性を高め、住宅・住環境の向上を図る。

### ③ 地域別の土地利用の基本方向：北大阪地域

計画地が位置する、北大阪地域における土地利用の基本方向としては、以下のような内容が挙げられている。

- 北大阪地域は、既成市街地の整備を進め、良好な地域環境の形成を図るとともに、丘陵部の一部では自然環境と調和した良好な新市街地形成を計画的に図っていく。さらに、国土の主軸上に位置するという有利性、並びに高度な学術・研究機関、文化施設の集積等を活かし、商業・業務・流通機能、国際的な学術文化・研究開発・情報の中核機能を備えた魅力ある地域の形成を図る。
- 宅地については、既成市街地において、住宅地の整備を進めるとともに、良好な住宅地を中心に住環境の維持、増進を図る。特に、大阪市外縁部に広がる狭小住宅密集地区においては、都市基盤施設の整備やオープンスペースを確保した総合的な住環境の整備を進める。商業・業務地については、都心機能を分担する高次の都市核形成とともに、主要な交通結節点や駅前地区等を中心として複合機能を備えた都市核の形成を図る。



### (3) 都市計画区域マスタープラン（平成 16 年（2004 年）4 月、大阪府）

#### ① 大阪府の広域的・根幹的課題

都市の現状を踏まえ、将来にわたり影響を及ぼすと考えられる、広域的・根幹的課題を以下のように打ち出している。

- 急速な高齢化と人口減少時代の到来
- 「みどり」の空間の減少
- 産業の空洞化
- 都市防災 等

#### ② 課題解決への展開

##### 1) 基本姿勢1

人口、産業の集積及び社会基盤のストック（蓄積）がそれぞれ異なる都心、インナー、アウトターの3つのエリアでストックをいかし、地域の個性、産業などのポテンシャル（潜在力）を引き出す。

都心エリア：概ね JR 大阪環状線の内側を中心として、高度な都市機能や社会基盤を有するエリア。

インナーエリア：交通利便性の高い大阪市縁辺部およびその周辺地域。

アウトターエリア：インナーエリアの外側に広がる周辺山系や農地等を含むエリア。

##### 2) 基本姿勢2

地域の住民と行政が協力し、地域と人、人と人の繋がりを大切にして、地区、沿道、街区レベルできめ細やかなまちづくりが実施され、地域の個性を引き出す地域マネジメント型まちづくりに転換する。

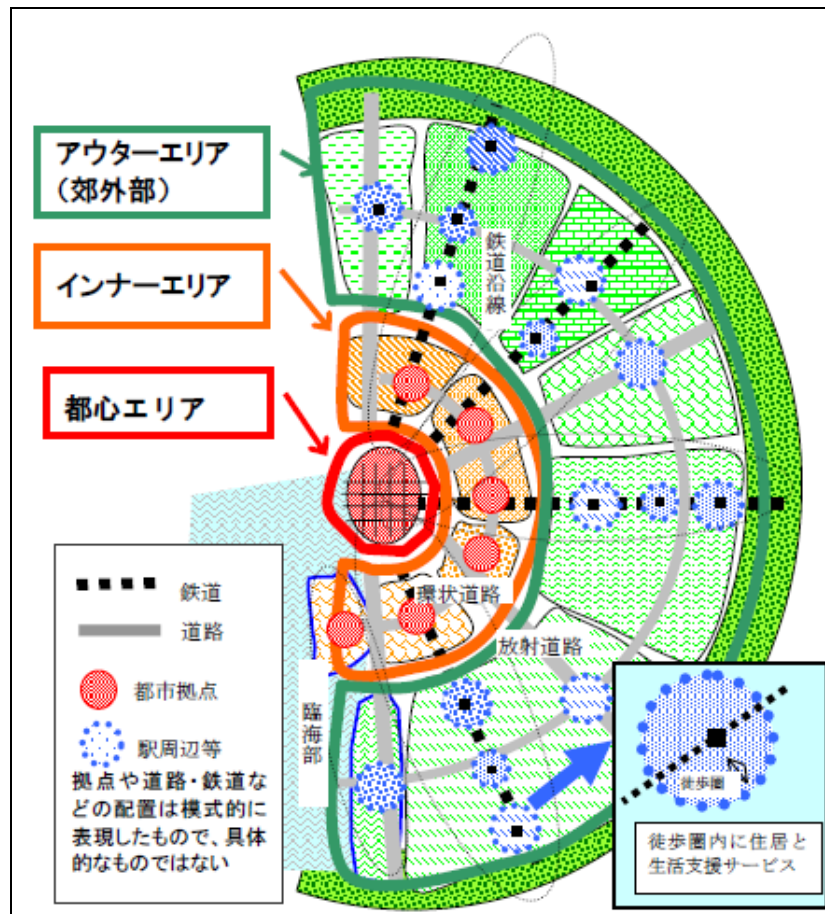
#### ③ 新しい大阪府の都市像

##### 1) 新しい大阪府の都市像



新しい大阪府の都市像

## 2) 大阪府の将来都市構造



将来都市構造のモデル図

- ・計画地は、インナーエリアに属し、その中での都市拠点として位置づけられることとなる。  
都市拠点：鉄道と幹線道路の交通結節点等で、居住や商業機能が集積した拠点。

### 3) 各エリアの将来像（都市拠点や計画地に関する記述）

- ・インナーエリアでは防災性の高い豊かな居住環境を形成する。
- ・特に産業が集積した地域などでは商業・居住機能を強化し、職住近接を図るなど良好な企業環境を形成していくことで、人口減少・少子高齢化時代においても都市活力を有する魅力ある地域へと再生していく。

#### 【都市拠点およびその周辺】

- ・一定の拠点性や工場跡地などの大規模な未利用地を有する地区において、商業・業務・居住などの機能を集積し、都市拠点を形成する。
- ・居住機能を強化するとともに、それを支える日常の買い物などの基本的な生活関連施設、生活支援サービス機能の充実を図る。

### ④ 施策の基本的方向（計画地に関する記述）

#### 1) 主要な土地利用の方向

- ・インナーエリアの地域拠点には、地域の核となる商業・業務機能の集積を図るとともに、高中密度な居住空間と十分な公共空間の配置を図る。

## 2) 主要な都市施設の整備の方向

- 車から環境の負荷の少ない鉄道などの公共交通機関への利用転換の促進や、歩道空間の充実に視点を当てるなど、車から人に視点を移した整備、災害防止に加え地域の個性を引き出す、まちづくりと一体となった道路整備などを図る。

## 3) 主要な市街地開発事業の整備の方向

- 駅を中心とする市街地では、土地区画整理事業や市街地再開発事業により土地の高度化を図ることによって、商業・業務機能を集約し高中密度の居住空間を配置するとともに公共施設を整備して、地域・地区を支える活力ある都市拠点と良好な都市環境を創出する。

(4) 吹田市都市計画マスタープラン（平成 16 年（2004 年）3 月、吹田市）

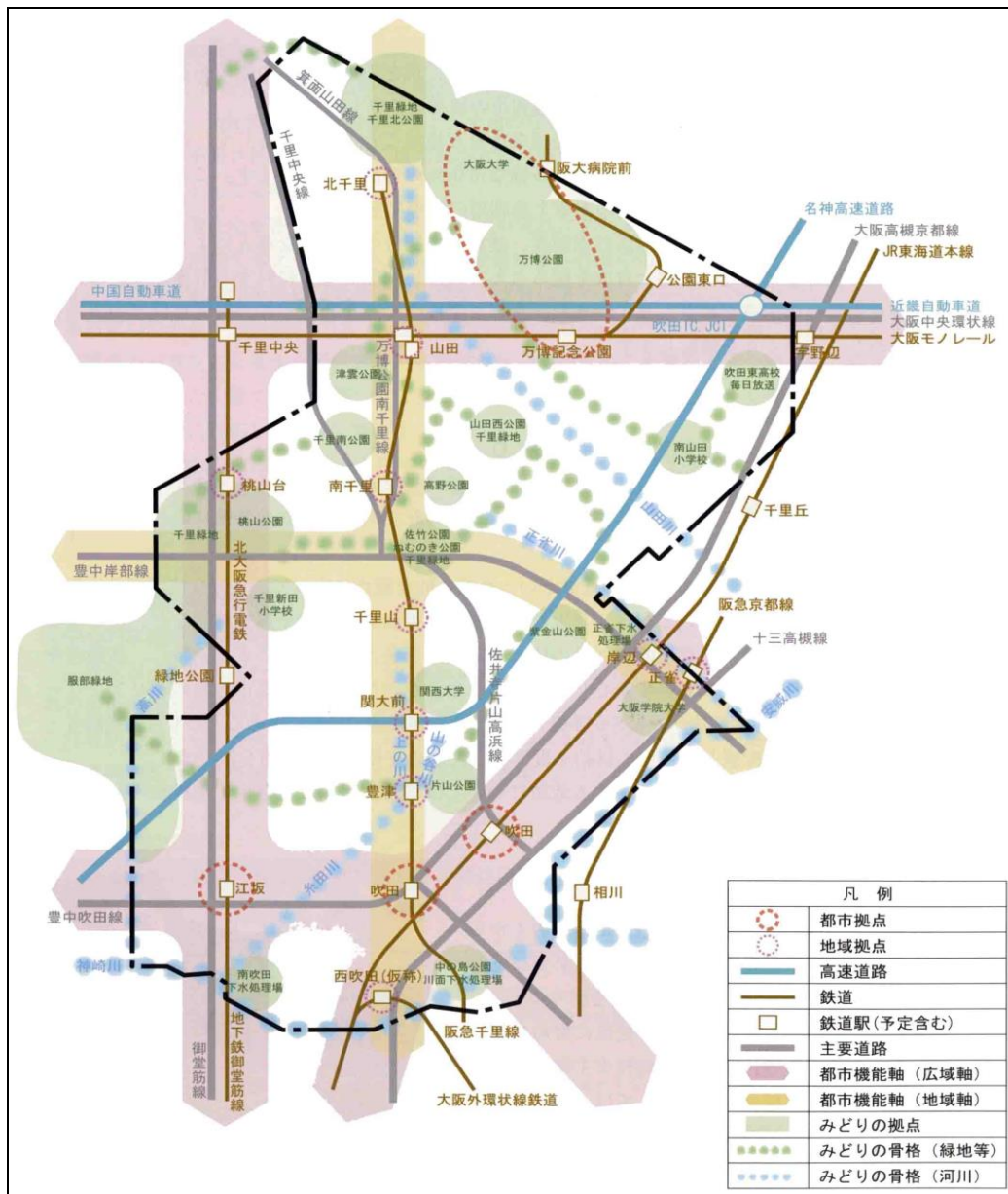
① まちづくりの基本理念

1) 暮らしに安心と快適性をもたらすまちづくり

- ・人にやさしい歩いて暮らせるまちづくり。
- ・災害と犯罪に強く安心・安全で健康に暮らせるまちづくり。
- ・多様なライフスタイルを支える環境づくり。
- ・都市活動を支える都市基盤の充実と計画的土地利用の誘導。

2) 誇りと愛着性の持てる定住のまちづくり

- ・個性豊かな地域づくり。
- ・地球環境の保全と環境への負荷の小さいライフスタイルへの支援。
- ・吹田らしい特徴のある文化都市づくり。
- ・多様な主体の協働によるまちづくり。



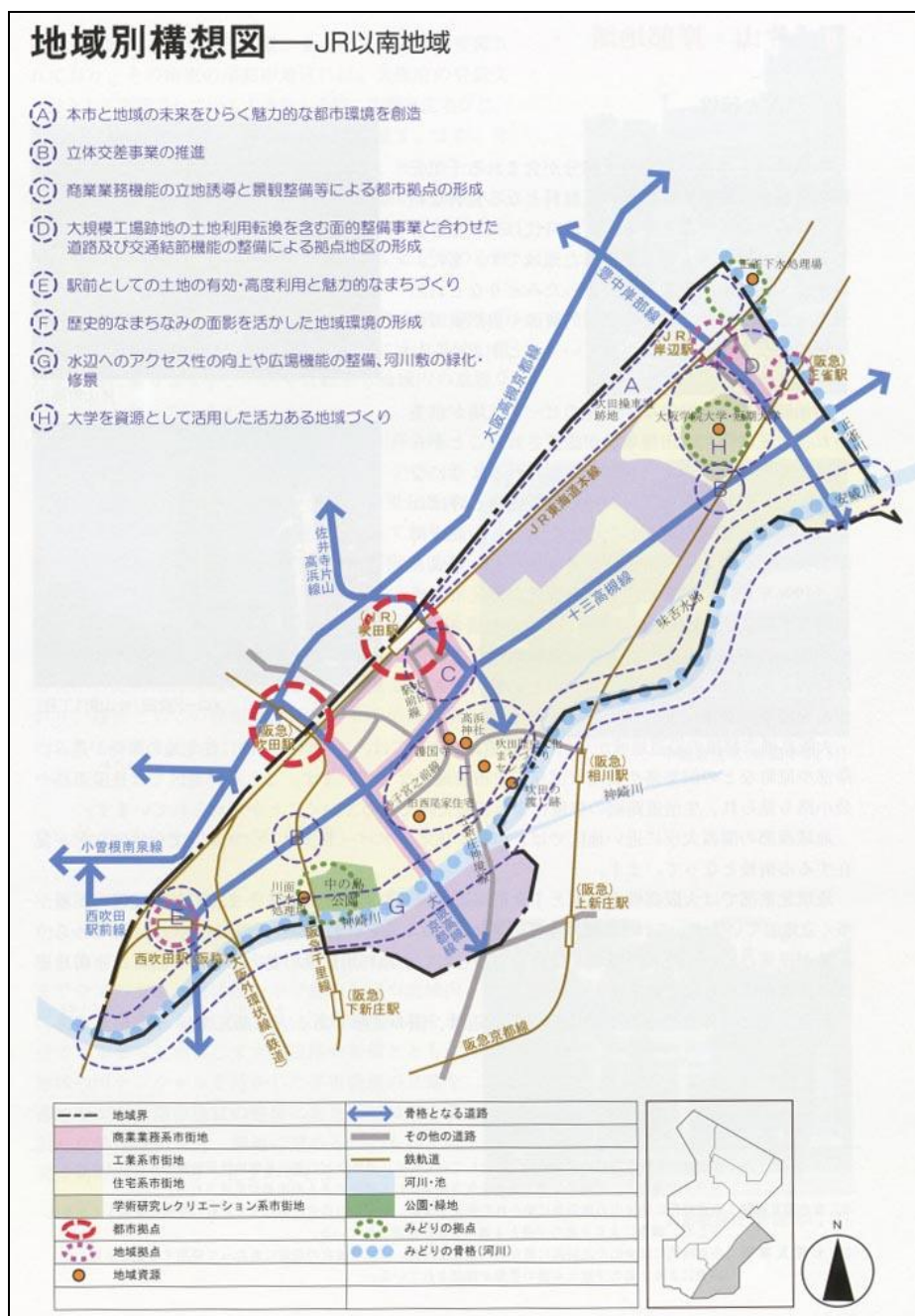
吹田市全域の都市空間の将来像



## ② 計画地を含む「JR以南地域」の地域別構想

まちづくりのテーマ：地域のまちづくりにおいて重要な資源である吹田操車場跡地については、地域の新しい未来をひらく魅力的な都市環境の創造をめざす。

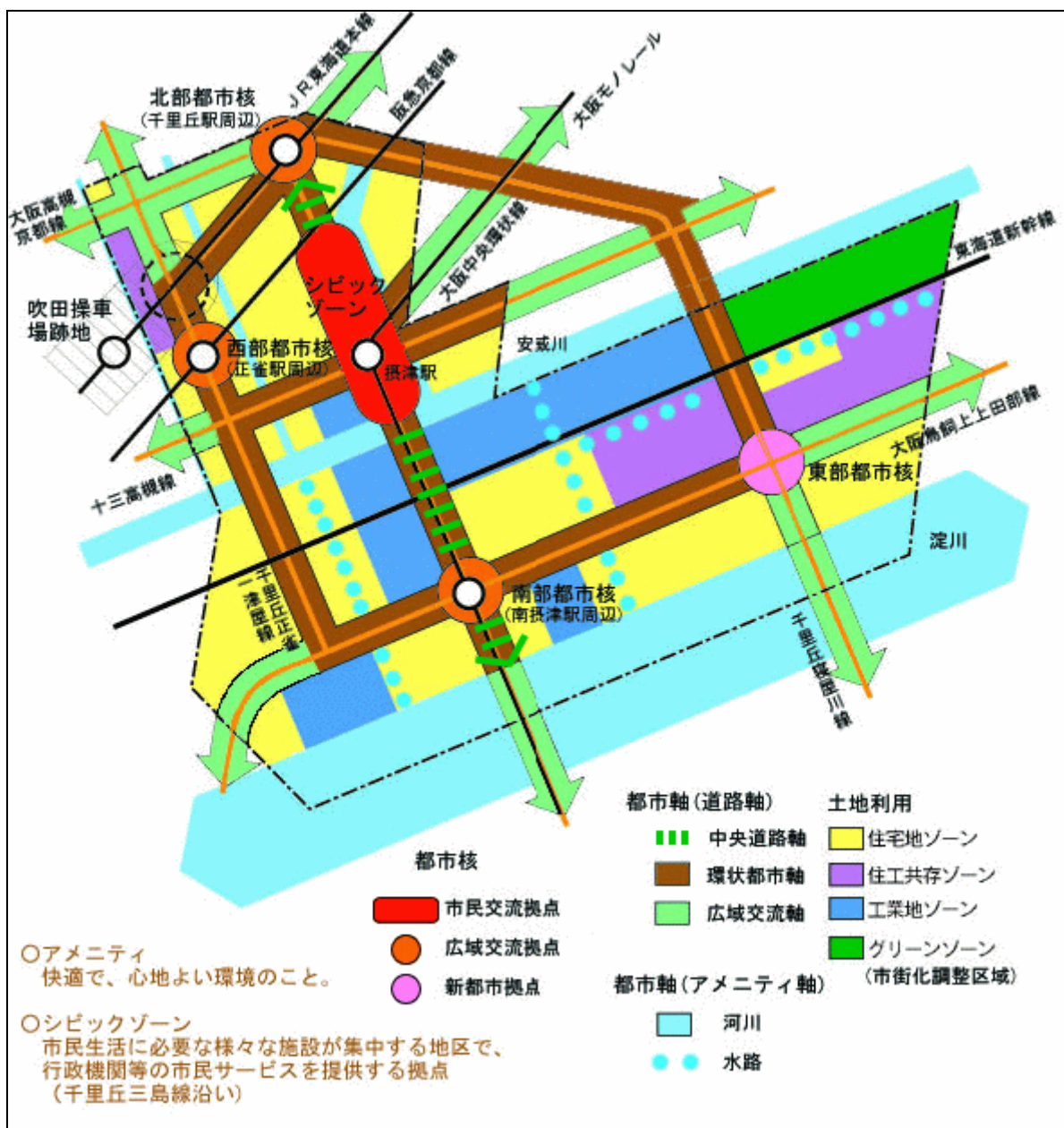
- ・広域幹線で地域の骨格を形成する主軸でもある十三高槻線、豊中岸部線の整備により、生活道路への通過交通の流入を防止するとともに、景観にも配慮した街路樹の整備などにより沿道地域との間の緩衝帯の形成に努める。
- ・地域内に不足している比較的規模の大きい公園の整備を検討するとともに、まちかど広場などの市街地内の身近なオープンスペースの確保に努める。
- ・吹田操車場跡地は、本地域のみならず本市全体のまちづくりに大きな影響を与えるものであり、社会的動向を見据えた今後の土地利用構想の進展とあわせて、本市と地域の未来をひらく魅力的な環境創造をリードしていくため必要な整備のあり方を検討する。



(5) 摂津市都市計画マスタープラン（平成 12 年（2000 年）2 月、摂津市）

① まちづくりの基本理念

- ・市民が集まりにぎわう場とネットワークを持つまちづくり。
- ・自然的環境と共生する、水とみどりにふれあうまちづくり。
- ・快適で安全な住環境を持つまちづくり。
- ・すべての人にやさしいまちづくり。
- ・社会の変化に柔軟に対応する活力あるまちづくり。
- ・行政と市民の協働によるまちづくり。



摂津市の都市の将来像

## ② 計画地を含む「北部地域」の地域別構想

### 1) にぎわいがあり、活力あふれる都市空間づくり

- ・「吹田操車場跡地」については、将来的な都市拠点としての整備も視野に入れ、隣接市とも連携を図りながら土地利用を検討する。
- ・千里丘三島線では、交通渋滞の要因となっているJR東海道本線下のガード部の拡幅整備を進める。
- ・吹田操車場跡地の土地利用に伴う新たな都市計画道路を検討する。

### 2) より快適で安全な、質の高い生活空間の創出

- ・歩行者が快適で安全に歩ける生活道路の整備を進め、緑道の整備や街灯の設置等とともに、バリアフリーにも配慮した歩道整備に努める。

### 3) うるおいと魅力ある都市空間の創出

- ・うるおいある水とみどりの都市空間の創出を図る。
- ・魅力的な都市景観形成を進める。



北部地域のまちづくりの方針



## 2. 自然環境に関する計画

### (1) 自然環境に関する上位計画における吹田操車場跡地の位置づけ

大阪府 21 世紀の環境総合計画 平成 14 年(2002 年)3 月策定

- 循環型社会を目指した環境都市づくり

吹田市環境基本計画

平成 9 年(1997 年)3 月策定

- みどりと水と文化あふれる生命にやさしいまち

摂津市環境行動計画

平成 7 年(1995 年)3 月策定

- 環境創造都市宣言(平成 6(1994)年 4 月)
- 人と環境が共生する都市・せつつ

大阪府広域緑地計画 平成 11 年(1999 年)3 月策定

- 大小様々なみどりを歩道、緑道や水辺等により有機的に連結し、みどりの連続性を確保する。



吹田市みどりの基本計画

平成 9 年(1997 年)3 月策定

- 人と自然が共生するみどり豊かなまち  
〔自然生態系都市(まち)づくり〕

摂津市緑の基本計画

平成 10 年(1998 年)3 月策定

- はな・みどり・みずのまち・さわやか摂津を将来像とした 5 系統の目標設定。

## (2) 大阪府 21 世紀の環境総合計画 (平成 14 年(2002 年)3 月、大阪府)

### ① 長期ビジョンと4つの基本方向

長期的な計画目標として、「豊かな環境都市・大阪」の構築を挙げており、「循環」「健康」「共生・魅力」「参加」の4つの基本方向を定めている。

- ・ **循環**：持続的発展が可能な循環を基調とする元気な社会の実現。
- ・ **健康**：環境への負荷が少ない健康的で安心なくらしの確保。
- ・ **共生・魅力**：豊かな自然との共生や文化が実感できる魅力ある地域の実現。
- ・ **参加**：すべての主体が積極的に参加し行動する社会の実現。

これらの基本方向に基づき、すべての主体（産学官民）が「参加」することを基礎として、「循環」「健康」及び「共生・魅力」で掲げる取り組みを相互に連携させるとともに、「資源循環」「水循環」「地球環境」「交通環境」「有害化学物質」「エコロジカルネットワーク（水と緑のネットワーク）」を今日の大阪の主要な課題として位置づけ、長期的には都市構造を適切に変革していくことも視野に入れて、それぞれの目標の達成をめざすものとしている。

### ② 各課題ごとの実現方策

#### 1) 資源循環

- ・ 廃棄物の発生抑制とリサイクルの推進：廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）を推進。
- ・ リサイクルのための施設整備：循環型社会の構築をめざす「大阪エコエリア構想」の推進
- ・ 府民、事業者等との連携の強化：最適生産・最適消費・最少廃棄型社会の構築をめざし、すべての主体による取り組みと連携強化。

#### 2) 水循環

- ・ 自然の水循環への影響が少ない水資源の利用：都市域での水の効率的利活用をはじめとした水資源の適切な利用。
- ・ 自然の水循環の安定的確保：都市域での雨水貯留施設の設置や透水性舗装の推進。
- ・ 水を大切に使い、守り育てる文化の育成：親水空間の整備や河川等の水質改善等の美しい水辺を身近なものにする取り組みを進めるとともに、水循環の保全・回復のための活動での各主体の積極的な参加・連携を促進・支援。

#### 3) 地球循環

- ・ 地球温暖化対策推進法に基づく施策：温室効果ガスの一層の排出抑制。
- ・ 省エネルギーの徹底：E S C O事業の活用や省エネルギー計画書の提出、グリーン購入の促進。
- ・ 新エネルギー、未利用エネルギーの活用：太陽光発電や天然ガスコージェネレーションなどの新エネルギーの普及や河川水や下水の温度差エネルギーなど未利用エネルギーの活用。
- ・ 地球温暖化対策に対する自主的取り組みの促進：大阪エコアクション宣言事業の推進。
- ・ フロンガスの適正処理及び脱フロンの促進。

#### 4) 交通循環

- ・ 発生源対策の充実：ディーゼル車対策の推進など。
- ・ 車社会からの転換：自動車交通量の調整・抑制を図る交通需要マネジメント（TDM）施策

を推進など。

- 円滑な交通流の確保。
- ライフスタイル・ビジネススタイルの転換：環境教育や啓発等を通じた自主的な取り組み促進と、税制などによる誘導や規制的手法の展開。

#### 5) 有害化学物質

- 環境リスクの適切な管理に基づく効果的な排出抑制の実施。
- 有害化学物質に関する知見や情報の収集と提供。
- リスクコミュニケーションの推進。

#### 6) エコロジカルネットワーク（水と緑のネットワーク）

- エコロジカルネットワーク軸の形成：自然空間の拠点や軸となる自然環境を保全・創出や、生きものの生息・移動の場の提供やヒートアイランド現象の緩和やゆとりと潤いを実感する景観の形成。
- 都市空間におけるみどりのネットワークづくり：都市公園や生産緑地、社寺林などの緑の拠点を確保するとともに、街路樹や緑道の整備、市街地の大半を占める民有地の緑化、ビルの屋上・壁面緑化、学校などを中心としたビオトープづくり。
- 自然環境の保全・整備手法に係る調査研究の推進。
- 各主体の連携を図る。

### (3) 吹田市環境基本計画 (平成9年(1997年)3月、吹田市)

#### ① 望ましい環境像を目指した5つの目標

##### 1) みどりと水と文化あふれる生命にやさしいまち

うるおいとやすらぎを与えてくれるみどりや水辺などの自然とふれあえ、まちの美しさやゆとり、歴史的環境と文化的雰囲気のある安全で生命にやさしい環境を現在及び将来の市民が享受できるまちをめざします。

##### 2) 人の健康の保護及び生活環境の保全(生活環境)

窒素酸化物問題など改善の進まない大気汚染の解決を図り、科学技術の発達に伴って、新たに発生する環境汚染物質の影響を未然に防ぎ、身近な生活環境をめぐる問題にも適切に対処をして、市民の健康を守り住みよいまちをめざします。

- ・工場・事業場に対する環境関連法令に基づいた規制・指導。
- ・電気自動車や天然ガス自動車などの低公害車の普及・促進。
- ・保水能力の向上や雨水利用の促進などによる水循環機能の向上。
- ・化学物質等による環境汚染の防止。
- ・公害健康被害の救済・予防と公害苦情への迅速な対応。

##### 3) 人間と自然とが共生する良好な環境の確保(自然環境)

人間はいろんな生物と共に自然を構成する一員であるとの自覚を新たにし、その保全と復元に努めるなど自然に親しめるまちをめざします。

- ・市内に生息・生育する生きものの保護。
- ・ため池や社寺林など自然の仕組みを活用したビオトープの保全と回復。
- ・食餌木の植栽などによる生きものの呼び寄せ。
- ・河川敷など自然と触れ合える場の創造と保全。
- ・農業に親しむ市民農園や体験農園などによる農地の保全と活用。

##### 4) 快適な都市環境の創造(都市環境)

史跡・社寺、伝統的祭りなどの歴史的文化的遺産と地域の風土を育んできた鎮守の森などの自然を守り、また、まちなみの美しさ、広場などオープンスペースの保全によって快適でゆとりのある生活を保障するまちをめざします。

- ・保護樹木・保護樹林の指定などによる市内に残されたみどりの保全と活用。
- ・透水性舗装や雨水浸透柵などでため池・河川水量の確保。
- ・公共施設での先導的役割による個性と魅力ある景観の保全と創造。
- ・旧道標や石碑の保護などで歴史的文化的環境の保全と活用。
- ・くつろぎや交流の場となる駅前広場やポケットパークなどの整備と設置。

##### 5) 地球環境保全に貢献できる社会の構築(地球環境)

環境の破壊が地球規模に及んでいる現在、これまでの大量に生産、消費し、廃棄する生活から人々のライフスタイルを環境への負荷の少ない方向へ進め、資源・エネルギー循環型社会へ転換を図るまちをめざします。

- ・廃棄物の減量とリサイクルの促進。
- ・太陽熱など自然エネルギーの活用や効率的なエネルギー利用。
- ・熱帯産木材製コンクリート型枠の使用削減による熱帯林の保護。
- ・二酸化炭素の排出削減による地球温暖化の防止。
- ・再生紙など環境に配慮した商品(グリーン購入)の購入促進。

#### (4) 摂津市環境行動計画 (平成7年(1995年)3月、摂津市)

##### ① 環境施策の分野別推進方針と総合的体系

###### 1) まちづくり

○「健康といのちを守る安全・安心のまち」をめざして

産業公害や都市災害などの防止を基本に、自動車公害、廃棄物の適正処理など都市・生活型公害の対策を進めるなど、関連施策を広域的・総合的に展開します。

- ・産業及び生活公害の廃止。
- ・自動車公害の防止。
- ・廃棄物の適正処理。
- ・化学物質の安全管理。
- ・都市災害の防止。

○「うるおいとゆとりのある快適なまち」をめざして

環境資源の特質を十分活かせるよう総合の関連性を考慮し、自然環境の保全と活用、都市景観の保全と創造、歴史的文化的環境の形成などの快適環境施策を展開します。

- ・緑の保全と育成。
- ・水辺との親しみ。
- ・生物生態系の保全と育成。
- ・都市景観の保全と創造。
- ・ゆとりのあるまちづくり。
- ・文化と歴史と国際性のあるまちづくり。

○「地球環境を保全する循環・持続型のまち」をめざして

産業活動、生活行動を地域から見直し、廃棄物のリサイクル、省資源・省エネルギーなど、環境に負荷の少ない都市構造の形成と循環型社会システムの構築をめざした施策を展開します。

- ・循環・持続型のまちづくり。
- ・地球環境の保全。

###### 2) ひとづくり

「市民・事業者の参加と協力」による環境の保全と創造を進めるために環境に対する関心を高め、人と環境とのかかわりについて理解、認識を深め、市民や事業者の主体的な行動が促進されるよう環境教育・環境学習の施策を展開します。

- ・環境教育・環境学習の推進。
- ・普及・啓発資料の開発・作成。

###### 3) しゅくみづくり

「総合的なしゅくみづくり」をすすめるために、環境施策の計画的な推進や環境配慮の実施などについては、適切な進行管理が重要であり、望ましい環境像の実現に向けて、国や府の環境施策を基本に予見的・総合的な視野に立って法的整備、組織や体制等の整備を図ります。

- ・総合的な条例など法的整備。
- ・環境監査制度の調査・研究。
- ・環境情報データベースの総合化と情報公開。
- ・他の行政機関との環境情報ネットワークづくり。
- ・快適なまちづくり推進体制の確立。

#### (5) 大阪府広域緑地計画 (平成11年(1999年)3月、大阪府)

##### ① 基本的な考え方

1) 府域の約半分が市街化区域であり、保全手法に加え、活用、創出手法を含めた、自然環境と都市環境の均衡あるみどりづくりを行う。



## 2) 計画の視点

- ・減災の視点。
- ・環境保全（都市環境、生物生息環境）の視点。
- ・今あるみどりの機能を最大限に発揮させる視点。

## ② 緑地保全・創出及び緑化の目標

### 1) 緑地の確保目標

- ・緑地(都市公園など)の大阪府域面積に対する割合を約4割以上確保する。

### 2) 緑化の目標

- ・大小様々なみどりを歩道、緑道や水辺等により有機的に連結し、みどりの連続性を確保する。
- ・市街地で、みどり豊かであると感覚的、意識的に満足できる水準として、樹林や樹木で被われた面積の市街地全体に対する割合を示す、緑被率15%を目指す。
- ・府民が率先してみどりについて考え、そしてみどりを保全・創出することのできるような、府民参加の仕組みや府民が主体となった取り組みへの支援を拡充する

## ③ みどりの将来像（北大阪地域）

### 1) 吹田操車場跡地の位置づけ

- ・「中央環状緑地群」に位置している。
- ・周辺に立地する主要な公園緑地としては、「万博記念公園」「服部緑地」があり、淀川を挟んで「鶴見緑地」がある。
- ・淀川や安威川を中心とした水系軸にも隣接している。

### 2) みどりの現状

- ・緑地面積：約28,800ha
- ・都市公園等の面積：約1,490ha
- ・市街化区域における緑被率約14.0%  
(計画目標の15%に近く、大阪府下では、緑地に恵まれた地域を形成)

### 3) 緑化方針

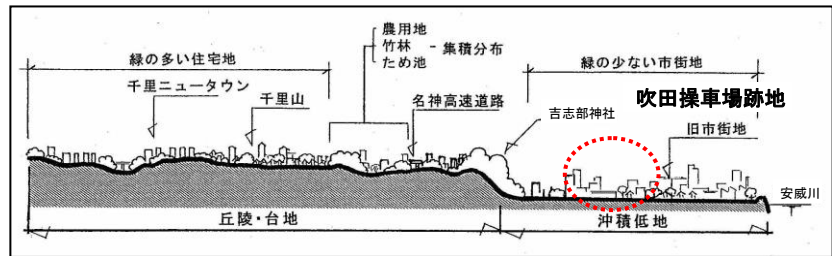
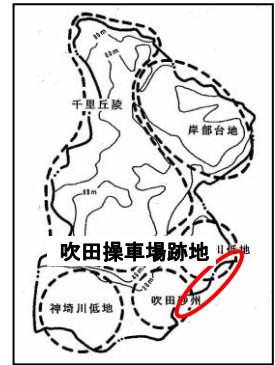
- ・大阪中央環状線等の街路樹の育成と充実。
- ・淀川、猪名川、神崎川、安威川、芥川等の河川の環境整備。
- ・高槻処理場及び中央処理場等の下水処理場や学校等の公共公益施設の緑化。
- ・国際文化公園都市や水と緑の健康都市におけるみどり豊かな市街地の形成。
- ・農地、ため池、水路等が一体となったみどり豊かな農空間の形成。
- ・民有地緑化の促進。

(6) 吹田市みどりの基本計画 (平成9年(1997年)3月、吹田市)

① 現況特性

1) 地形特性

- 南北で見た場合、旧市街地が位置する沖積低地と千里などの丘陵・台地に分けられる。
- 吹田操車場跡地周辺は沖積低地となっており、安威川低地に位置している。
- 市域北部には千里丘陵や岸部台地など南にゆるやかに傾斜する起伏差の少ない丘陵地となっている。



2) みどりの現況

- 北部の千里丘陵や岸部台地には、万博記念公園や大阪大学などまとまった緑が分布し、量と質が今日まで継承されている。
- 低地である南部市街地と千里山の丘陵地が接している地域では、紫金山公園や吉志部神社等の斜面林、吹田市立博物館や関西大学をはじめとする数多くの施設における緑が帯状に分布している。
- 吹田操車場跡地を含めて、南部市街地では、オープンスペースが乏しく、片山公園や生産緑地を除いては、まとまった緑はほとんど見られない状況である。
- 河川については、南部市街地を中心に神崎川や安威川、山田川や糸田川、正雀川などがあり、貴重なオープンスペースといえる。

②みどりの計画目標

1) 緑被率

- 緑被率 30%を目指す。  
⇒吹田市快適環境推進構想の市民意識調査による「気軽にふれあえる自然」を感じる目安  
⇒大阪府における目標値は 15%であるため、非常に目標水準は高いといえる。
- (参考) 地域ごとの緑被率の例  
⇒千里ニュータウン地域：40.3%、山田・千里丘地域：28.2%、千里山・佐井寺地域：17.4%  
豊津・南吹田地域：8.0%、JR以南地域：4.7%。

2) 拠点となるみどりの確保

- 市域の 20%以上の緑地を確保する。
- 住区基幹公園の面積を市域面積の 4%確保する。

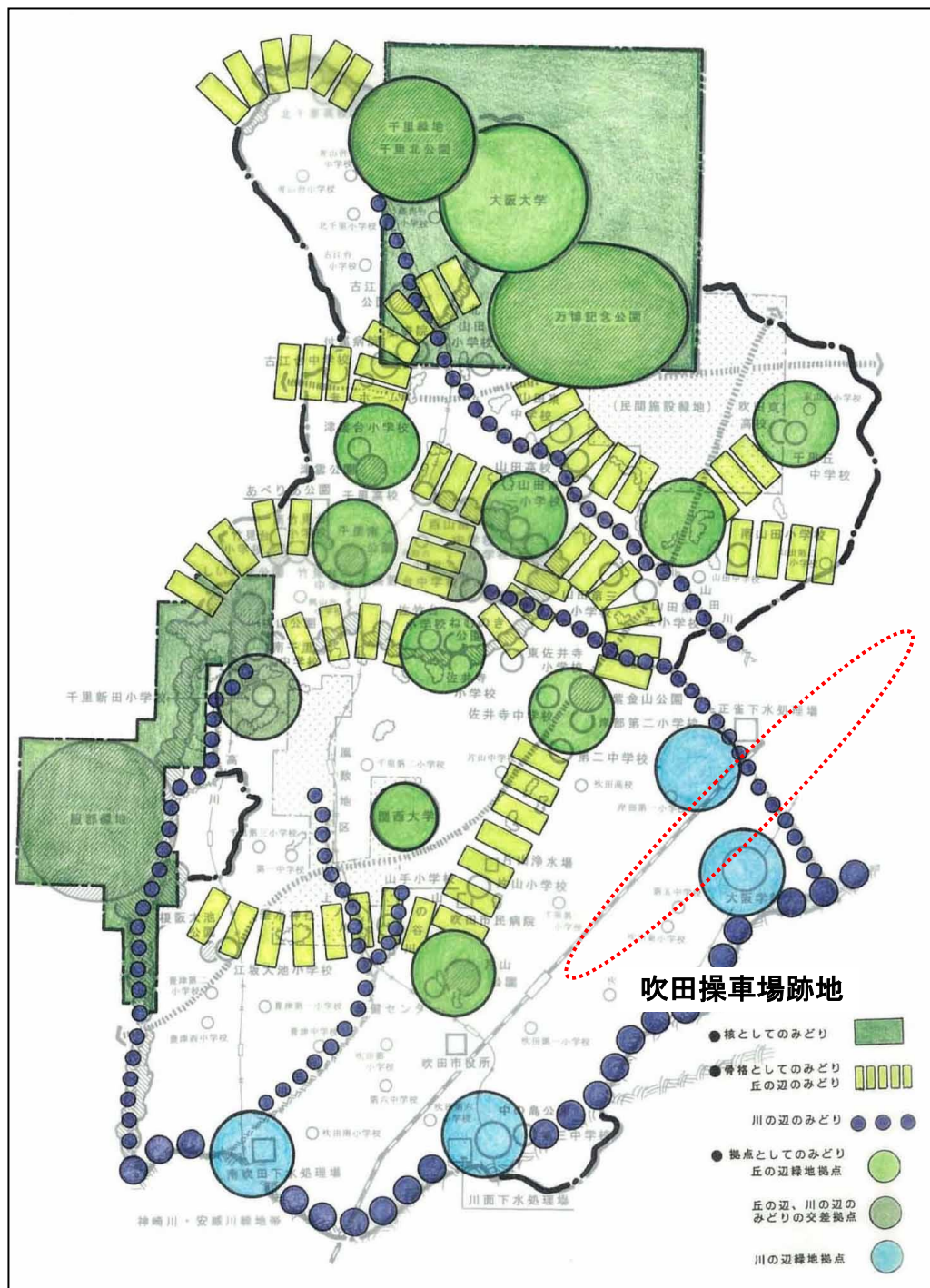
3) 緑と水のネットワーク

- 市域に点在するみどりを有機的に連続させる。

- ・緑による丘の辺の“緑”と河川等による川の辺の“水”とを連携したネットワークを計画する。

吹田操車場跡地のうち、岸边駅周辺は「川の辺緑地拠点」に指定されており、その整備内容としては以下のような内容が挙げられている。

- まとまりある緑地の保全と再生
- ビオトープ園の設置
- 生きものの生息や地域の環境改善に配慮した緑化
- 災害時の避難、救援援助に資する施設整備
- 川に映える花の名所づくり
- 積極的な水の導入による水景づくり



(7) 摂津市緑の基本計画 (平成10年(1998年)3月、摂津市)

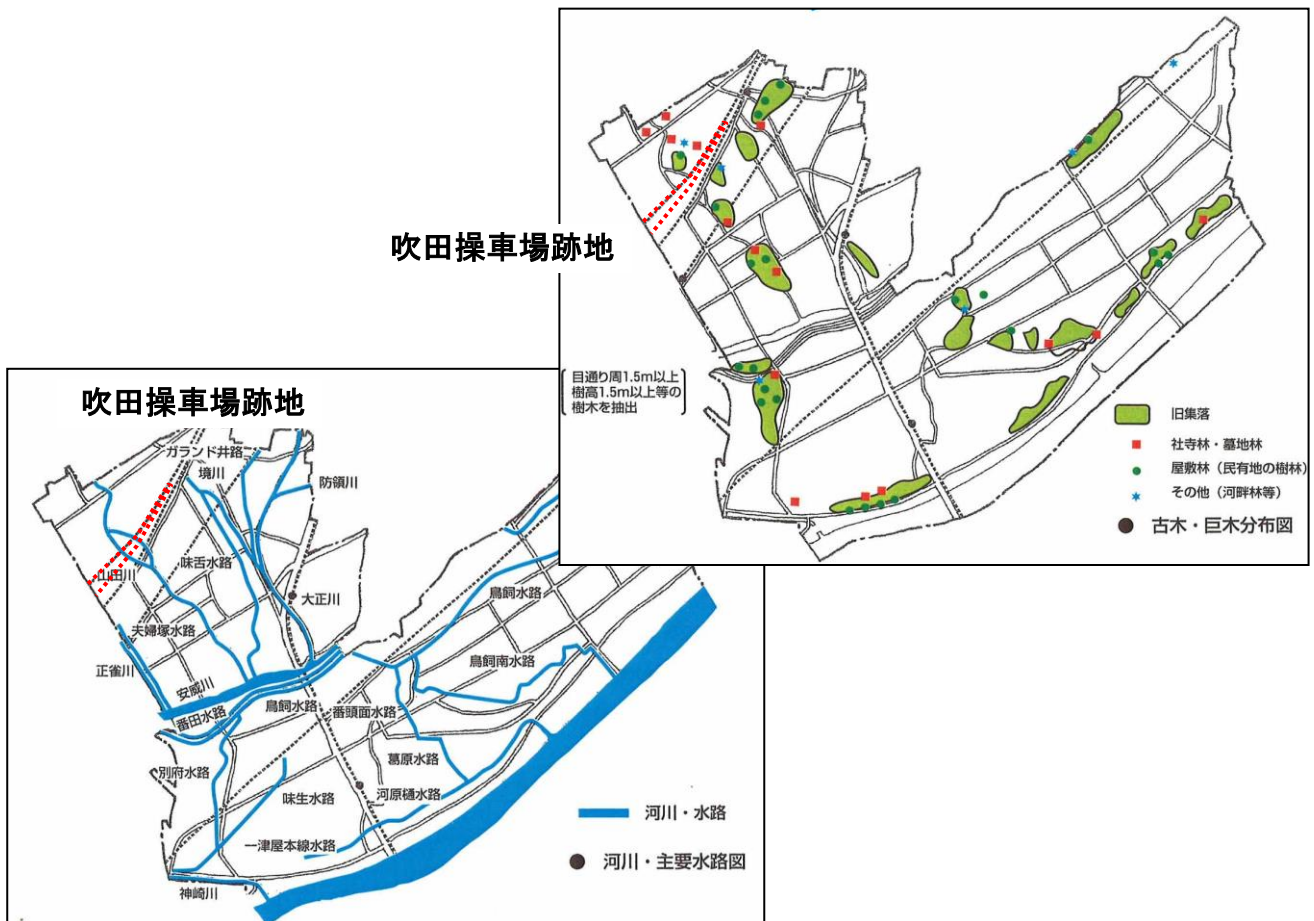
① 摂津市の概況

1) 都市特性

- ・ 地理的立地条件  
国土軸上・大阪市の均衡・大阪府の放射・環状系都市骨格の交点付近に位置。
- ・ 基調をなす環境条件  
淀川右岸・安威川合流点付近に広がる水路の発達した農業田園地域。  
山地・丘陵地がなく、全域がほぼ平坦地。
- ・ 市街地形成の経緯  
町村合併による市の誕生（分散型の都市構造）。  
計画的・自然発生的市街地の併存。  
旧集落内に残るかつての面影（古木・巨木のある屋敷林・河畔林など）。

2) 緑の現況量と分布

- ・ 都市計画区域における緑の合計は概ね 230ha で、市域の約 15% となっている。
- ・ 内訳としては、水面・ススキ等の草地・水田が 8 割を占めている。
- ・ 吹田操車場跡地周辺においては、正雀下水道処理場敷地内の緑があるものの、まとまった緑はほとんど見られない状況である。
- ・ 河川については、吹田操車場跡地周辺には正雀川があり、市域としては、淀川や安威川があり、緑に関する空間の大半を占めるとともに、貴重なオープンスペースとなっている。





## ② みどりの計画目標

### 1) 緑の目標量

- ・都市計画区域において、概ね 300ha、約 20%の緑の確保を目指す。  
⇒大阪府における目標値 15%よりも高い目標水準となっている。

### 2) 緑の将来像と基本方針

- ・(将来像) はな・みどり・みずのまち・さわやか摂津。
- ・環境保全系統：自然と共に暮らす、持続可能な環境づくり。
- ・レクリエーション系統：様々なレクリエーション活動が可能な環境づくり。
- ・防災系統：緑を基盤とした安心して暮らせる環境づくり。
- ・景観構成系統：郷土の景観を大切に、新しいまちの姿を整える環境づくり。
- ・緑の保全・整備：緑を守り、育む市民主体の環境づくり。

### 3) 総合的な緑地の配置方針

#### ○都市骨格を構成する緑地の配置

河川や幹線道路を活用して都市構造を明確にする都市の緑の骨格形成を図る。

#### ○4系統地域～広域レベルで重要な緑地の配置

環境保全など4系統の各観点や大阪府・摂津全市・市内各地域レベルで総合的に重要な緑地を大切にされた配置とする。

#### ○地域を特徴づける緑地の配置

山や丘陵地のない本市を特徴付ける河川・水路や社寺林等の他、産業都市を特徴付ける工場・流通施設の緑地を活用した配置とする。

#### ○緑のネットワークの形成

緑化道路やふれあいつづみなどの水辺を活用して、市内の緑の拠点を有機的にネットワークし、整備・利用効果の向上を図る。

#### ○地域バランスを考慮した緑地の配置

安威川の南北両地区や各住区の整備水準が大きく異ならないよう、各地区・住区の緑地の充足度を考慮した配置を行う。



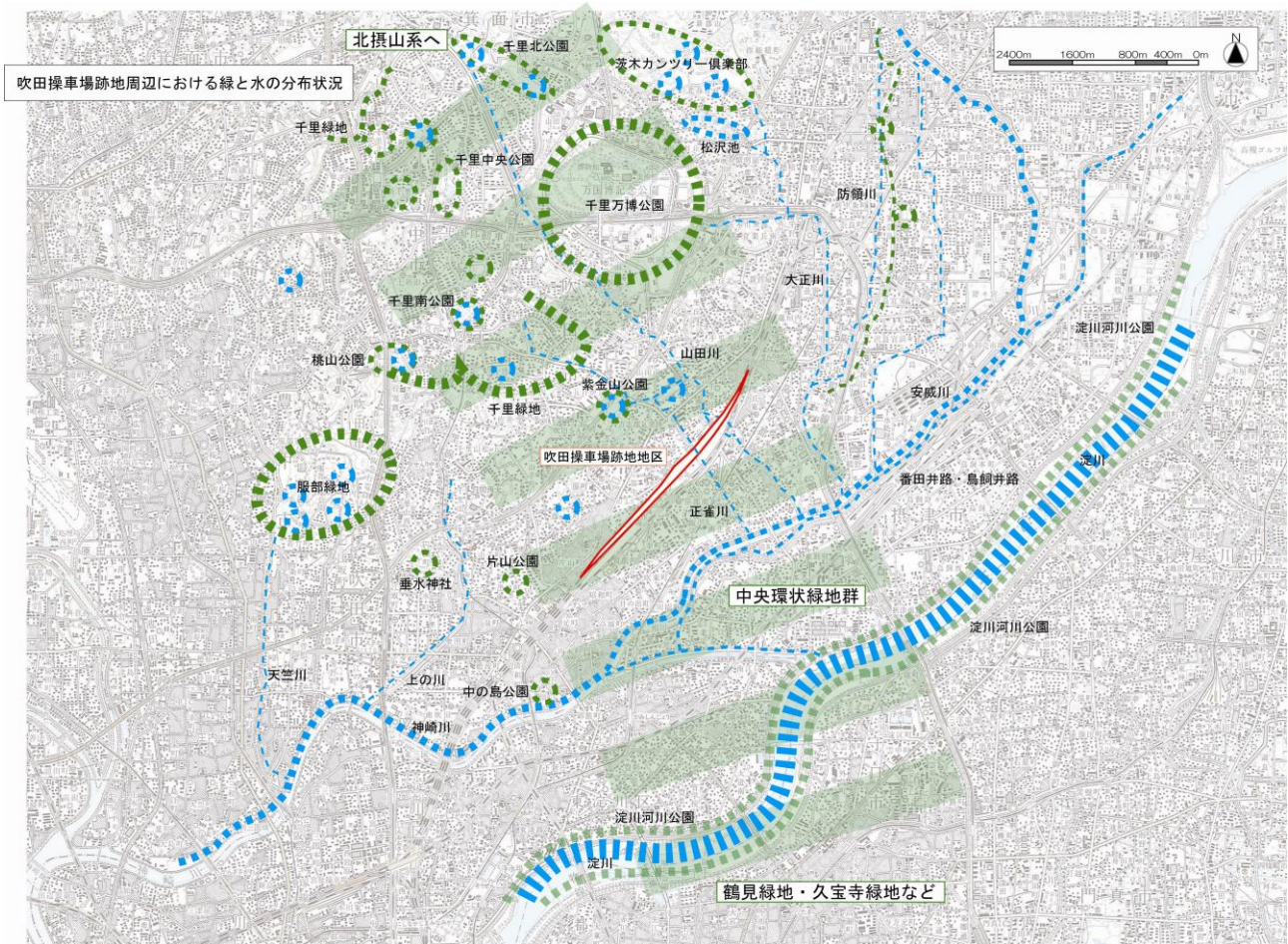
### Ⅲ. 周辺地域の特性

#### 1. 緑や水などの自然資源の分布

吹田操車場跡地は、沖積低地に位置していることもあり、北西部の千里丘陵に比べても緑の分布は少ないものの、北から北摂山系、万博記念公園や服部緑地などの大規模な公園緑地、丘陵部と低地の境界に位置する帯状の千里緑地や紫金山公園など、まとまった緑が存在している。

まちづくりを計画する用地（以下「計画地」という。）の南側においては、住区基幹公園などがあるものの大規模な緑地は淀川を越えて鶴見緑地まで見られない。ただし、安威川や神崎川、淀川などの主要河川に加え、山田川や正雀川といった千里丘陵からの都市河川があり、緑を繋ぐネットワークとして貴重な自然資源がみられる。

計画地は、大阪府広域緑地計画において、「中央環状緑地群」の軸線上に位置づけられており、北摂山系から千里丘陵、淀川から鶴見緑地に至るまでの、緑のネットワーク形成が目標とされており、計画地において、まとまった緑の整備を行うことは、計画地周辺の市街地環境の向上を促すだけでなく、広域における「中央環状緑地群」の形成にも大きく寄与することが期待できる。



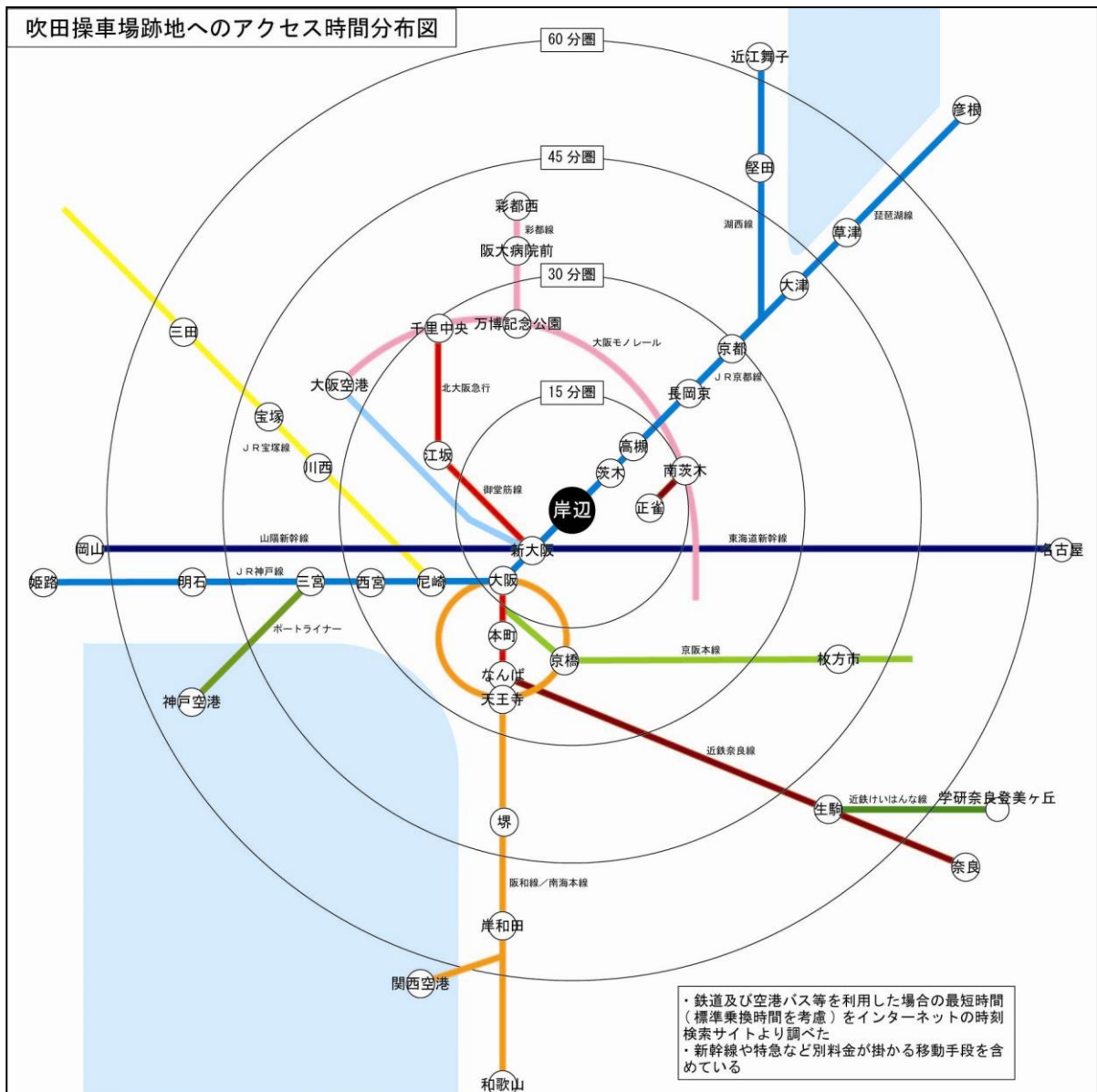


## 2. 鉄道を中心とした交通アクセス

吹田操車場跡地は、JR京都線（東海道本線）に併走して立地しており、中央に岸辺駅があるとともに、東側は千里丘駅、西側は吹田駅に近接している。このため、京阪神の各都市との交通利便性は非常に良好であり、遠方の都市からの来街に対しても、十分対応しうる立地特性を有している。

以下に、京阪神の主要駅からの所要時間に基づく分布図を示しているが、大阪府内はもとより、神戸や京都といった京阪神の大都市からは30分前後で、滋賀や奈良、和歌山といった近畿圏の県庁所在地からはおよそ1時間で、また、遠方からの玄関口となる新大阪駅については7分と大阪都心部にひけを取らない位置に近接しているため、名古屋や岡山といった主要都市からも約1時間で到達できる環境にある。

大阪空港、関西空港、神戸空港のいずれも1時間以内に到達可能な、アクセシビリティの高い立地環境にあり、市域内だけでなく、広域からの集客を図ることが可能な立地ポテンシャルを有しているといえる。



### 3. 周辺の都市機能集積

吹田操車場跡地周辺に集積する様々な都市機能を項目別に整理した。

#### (1) 商業施設

千里中央、茨木、大日を中心に大規模な商業集積がなされている。特に茨木のマイカル茨木や大日のイオン大日ショッピングセンターなど、近年のロードサイド型ショッピングセンターの整備が行われ、広域を対象とした商業環境が激化している。吹田市・摂津市域においては、5万㎡を超える大型商業施設集積は見られないが、鉄道駅やロードサイドを中心に中規模な商業施設が集積している。

#### (2) 業務施設

地下鉄御堂筋線の沿線を中心に業務ゾーンが集積している。新大阪・江坂・千里中央が、代表的な集積地となっており、吹田市の江坂地区では本社を構える企業も多い。大阪の都心部を含めて、業務施設の整備集積動向については、地区の利便性に関する2極化が進んでおり、御堂筋線沿線の淀屋橋や梅田、新大阪等については、新規テナントビルの供給も行われているが、それ以外の地区については、空室率の増加などにより、老朽化したビルの用途転換等も行われているところである。

#### (3) 主要な工場

JR沿線や主要幹線道路沿いに立地しており、吹田操車場跡地周辺にも、アサヒビールや大日本インキ、芦森工業などの大規模な工場が立地している。ただし、近年の産業構造の転換や既存施設の老朽化等により、既存の工場を廃止して用途転換を図り、商業や住宅等の開発を図る事例も散見される。

#### (4) 主要なホテル

宿泊に加えて会議や婚礼など、交流機能を有する「シティホテル」は、江坂や千里中央といった業務集積地区や、万博記念公園や南千里など、大学や研究施設など、他地区からの来街がある地区を中心に立地している。このようなホテルについては、地域における「リビングルーム」として、様々な交流活動が展開される機能を有しているが、事業性の問題からも、立地可能な場所については限定される傾向がある。

#### (5) 教育施設

大学などの高等教育機関と研究機関が周辺に多数立地しているといえる。計画地周辺には大阪学院大学をはじめ、関西大学、大阪人間科学大学、大阪成蹊大学などが立地している。さらに、万博記念公園周辺には、大阪大学（医学部や工学部など）、千里金蘭大学、国立民族学博物館などの教育研究機関だけでなく、大阪大学バイオ関連多目的研究施設や大阪バイオサイエンス研究所などの高度研究機関も立地しており、これらのライフサイエンス分野については、彩都（国際文化公園都市）のまちづくりにおいても、重要な関わりを持っている。



#### (6) 文化施設

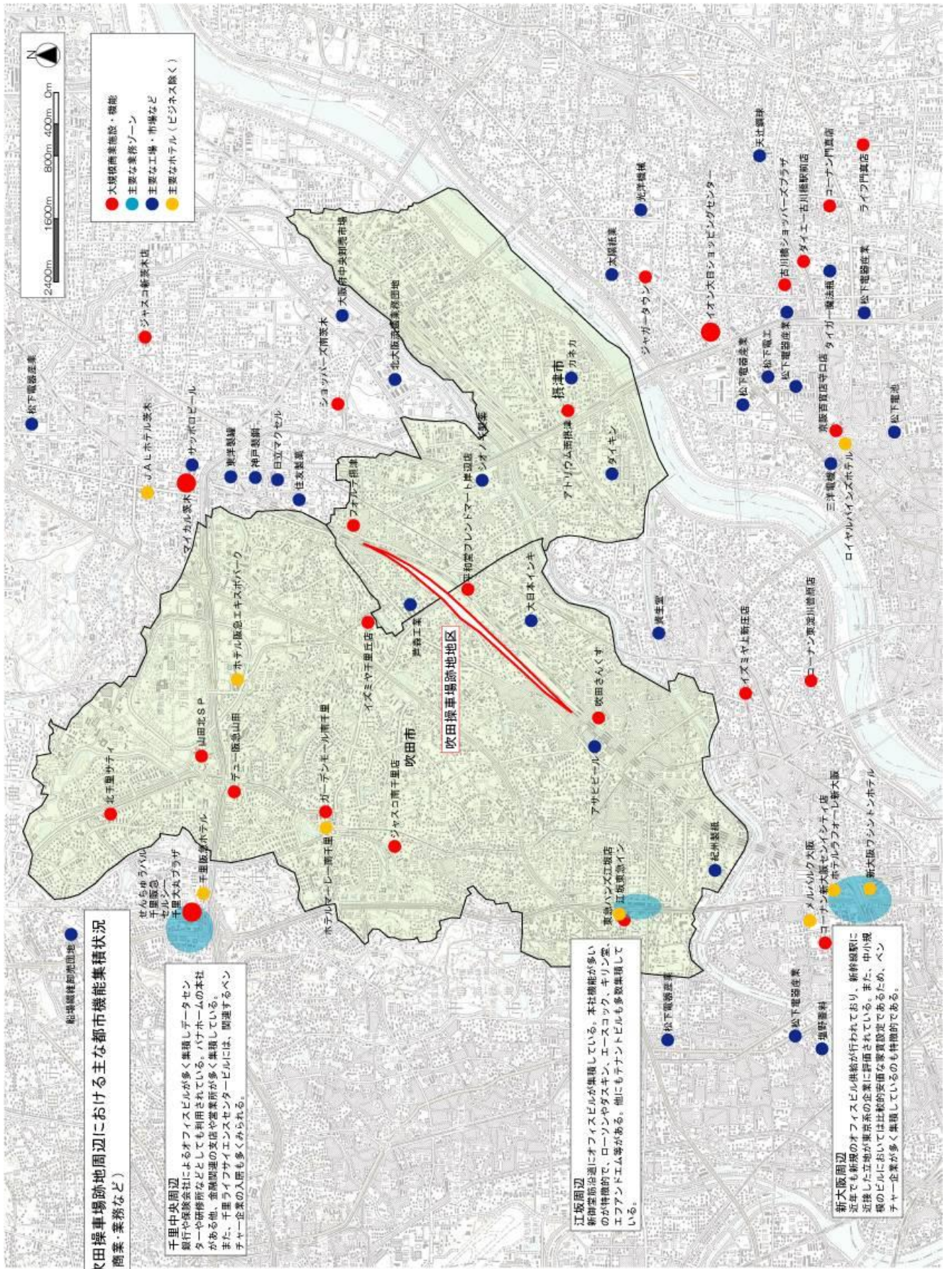
計画地の北側には紫金山公園があり、その中に吹田市立博物館がある。計画地の西側のＪＲ吹田駅周辺には市民会館やメイシアターなどホールを中心とした文化施設集積がある。また、万博記念公園内には、国立民族学博物館をはじめとして、大阪日本民芸館や大阪府立国際児童文学館、千里アーカイブステーション等の施設がある。

#### (7) 医療施設や健康増進施設

計画地周辺に高度医療機関も多数集積している状況である。病院については、吹田市民病院や済生会吹田病院、摂津医誠会病院などがあり、北部の千里丘陵に、大阪大学医学部及び歯学部の附属病院や国立循環器病センターといった高度医療機関が集積しているのが特徴的である。一方、吹田市及び摂津市の保健センターが計画地の東西に近接して立地している。

#### (8) 環境関連施設

万博記念公園及び服部緑地といった広大な緑地公園の中に自然観察学習館（万博記念公園）や都市緑化植物園（服部緑地）がある。また、リサイクルについて展示体験や学習機能と実際のリサイクル工場を併設した吹田市資源リサイクルセンターが万博記念公園に立地している。







#### 4. 大規模都市開発プロジェクト（広域）

吹田操車場跡地周辺において、近年の都市再生の政策を背景とした様々な大規模都市開発プロジェクトが実施されている。これらの事業内容や、核となるプロジェクト（以下「コアプロジェクト」という。）を整理した。

プロジェクト名	千里中央再整備/ マンション建替え	彩都(国際文化公園都市)	水と緑の健康都市	大阪駅北地区第1期 (北ヤード)	あまがさき緑遊新都心	阪急西宮北口駅周辺	JR高槻駅北東地区
整備目的	既存ニュータウンの 建替再整備	新市街地開発	新市街地開発	操車場跡地開発	工場跡地開発	震災復興 市街地整備	工場跡地開発
事業手法	民間建替	区画整理	区画整理	区画整理	区画整理	区画整理・再開発	区画整理
コア プロジェクト	商業及び医療施設	研究機関 (ライフサイエンス パーク)	里山住宅地の整備	研究交流機関 (ナレッジキャピタル)	大規模商業及び老 人福祉施設	文化施設 (兵庫県立芸術文化 センター)	教育機関 (関西大学の新キャン パス)
事業主体	民間	国、中小機構、大学、民間	民間	民間、行政、大学	民間	県	大学
商業	大型電気店、既存商 業施設修繕	ガーデンモール彩都 (地区内対応)	地区内対応の商業 施設を予定	各種大型専門店等 の導入を予定	百貨店や量販店から なる複合商業施設	百貨店など大型複合 商業施設	既存百貨店の再整 備
業務		(研究機関に含める)	恵まれた環境を活か した業務・研究施設 を誘致予定	賃貸オフィスを中心 とした整備を予定	スポーツ系企業事務 所が整備中。従前の 工場も建替		コンプレックス棟及び 業務施設を整備予 定
ホテル				整備予定			整備予定
住宅	集合住宅	戸建・集合住宅	里山住宅等戸建中心	集合住宅	集合住宅	集合住宅	集合住宅
文化	新千里文化センター (建替)			サイバーアートセン ター等の情報交流施 設を整備予定		兵庫県立芸術文化 センター、市の図書 館・ギャラリーなど	
教育研究 (高等)		医薬基盤研究所、彩 都バイオインキュ ベーター等研究機関		慶応大学サテライト (予定)、アジア太平洋 研究所やロボット等	関西国際大学新キャン パス	市の大学交流セン ター	関西大学新キャン パス
医療健康	病院、有料老人ホーム、 保育所	病院、診療所、健康 プラザ	診療所などを予定		昭和病院(地区外から の建替移転)、有 料老人ホーム	クリニックモール	既存病院に隣接して 福祉施設と老人ホーム を整備予定
緑や水		あさぎ里山公園を中心 に各種公園や植 栽、せせらぎなど	住宅の後背地に住 民が利用できる里山 を整備	幹線道路に面した緑 地帯と水路ネット ワーク整備	1halにわたる大規模 公園を区画整理によ り整備予定		大学用地の周辺に 公園を整備予定
基盤整備	バスターミナル・駐車 場再整備	大阪モノレール延伸 及びアクセス道路	アクセス道路 (トンネル)	駅前広場、幹線道路 鉄道地下化(予定)	補助幹線道路	駅前広場、幹線道路 一部鉄道高架化	補助幹線道路
現状の 施設集積	近隣商業・業務集積 と研究交流機能 (千里ライフサイエ ンスセンター)	なし	なし	商業・業務をはじめ とした豊富な都市機 能集積	製造業の工場群と病 院、住宅	商業や住宅、学習塾 等の集積	百貨店をはじめとし た商業集積や業務 集積など

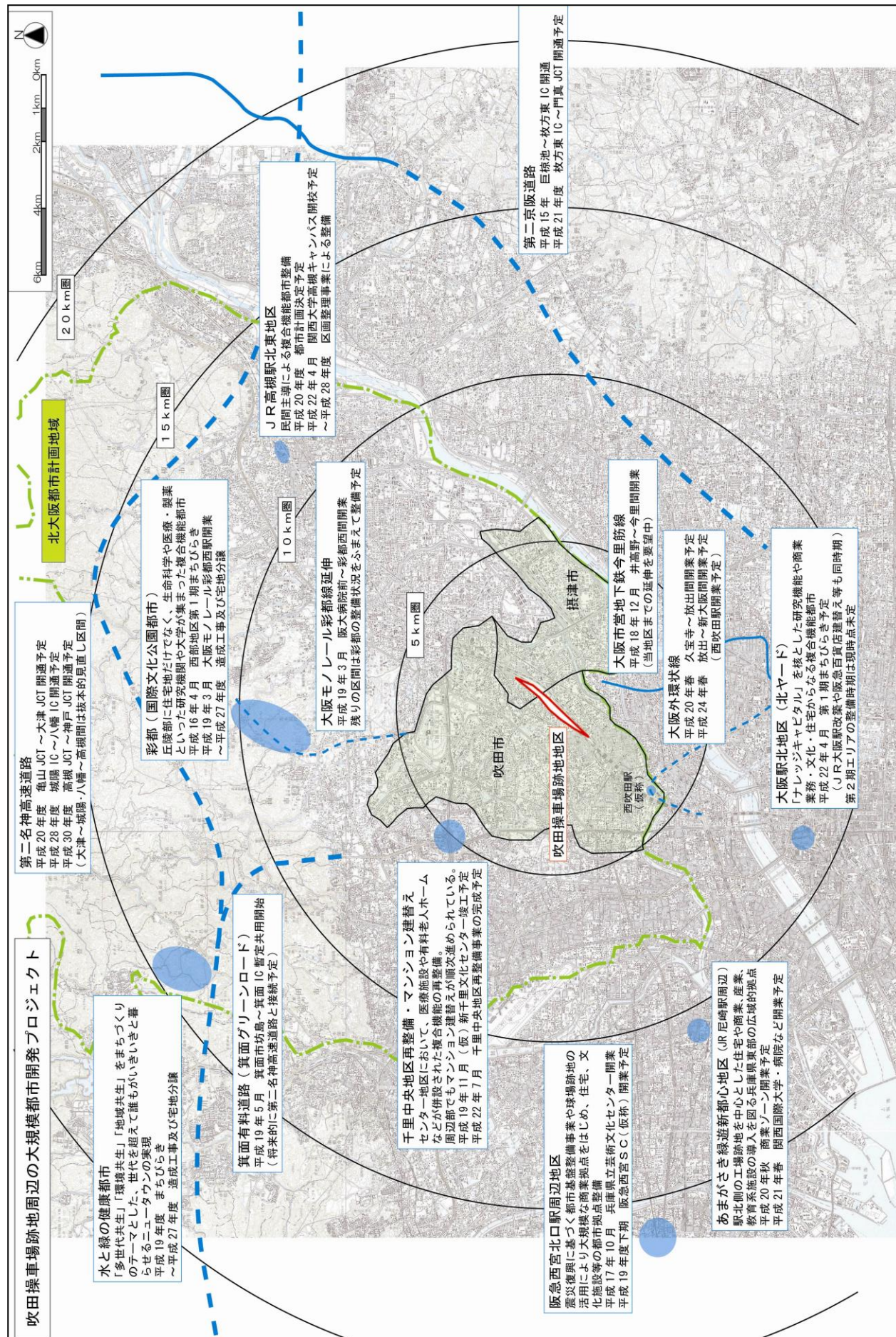
近年の大規模都市開発は、社会経済環境の変化により、これまでの商業や業務施設中心から、より多くの機能を集積する開発が増える傾向にある。

コアプロジェクトとして教育研究機能を重視したものとしては、大阪駅北地区のロボットやユビキタス関連の産業を対象とした「ナレッジキャピタル」や、彩都（国際文化公園都市）のバイオや遺伝子など生命科学に関する新技術・新産業育成を目指す「ライフサイエンスパーク」が挙げられる。

また、文化機能整備を重視した阪急西宮北口駅周辺の「芸術文化センター」や、里山住宅地といった豊富な自然環境の中での新市街地形成を目指す「水と緑の健康都市」など、様々な特色づけを行っている。

吹田操車場跡地においては、周辺が既存市街地であることや、既存の産業集積をはじめとした都市機能集積が豊富にあることから、緑や水の既存資源を生かした開発が望まれる。





**吹田操車場跡地周辺の大規模都市開発プロジェクト**

**水と緑の健康都市**  
 「多世代共生」「環境共生」「地域共生」をまちづくりのテーマとした、世代を超えて誰もがいきいきと暮らせるニュータウンの実現  
 平成19年度 まちづくり  
 ~平成27年度 造成工事及び宅地分譲

**箕面有料道路(箕面グリーンロード)**  
 平成19年5月 箕面市坊高~箕面IC暫定共用開始  
 (将来的に第二名神高速道路と接続予定)

**千里中央地区再整備・マンション建替え**  
 センター地区において、医療施設や有料老人ホームなどが併設された複合機能の再整備。  
 周辺部でもマンション建替えが順次進められている。  
 平成19年11月(仮)新千里文化センター竣工予定  
 平成22年7月 千里中央地区再整備事業の完成予定

**阪急西宮北口駅周辺地区**  
 震災復興に基づき都市基盤整備事業や球場跡地の活用により大規模な商業拠点をはじめ、住宅、文化施設等の都市拠点整備  
 平成17年10月 兵庫東立芸術文化センター開業  
 平成19年度下期 阪急西宮SSC(仮称)開業予定

**あまがさき緑遊新都心地区(JR尼崎駅周辺)**  
 駅北側の工場跡地を中心とした住宅や商業、産業、教育系施設の導入を図る兵庫東部の広域的拠点  
 平成20年度 商業ゾーン開業予定  
 平成21年春 関西国際大学・病院など開業予定

**第二名神高速道路**  
 平成20年度 龜山JCT~大津JCT開通予定  
 平成28年度 城陽IC~八幡JCT開通予定  
 平成30年度 高槻JCT~神戸JCT開通予定  
 (大津~城陽、八幡~高槻間は根本的見直し区間)

**彩都(国際文化公園都市)**  
 丘陵部に住宅地だけでなく、生命科学や医療・製薬といった研究機関や大学が集まった複合機能都市  
 平成16年4月 西部地区第1期まちづくり  
 平成19年3月 大阪モノレール彩都西駅開業  
 ~平成27年度 造成工事及び宅地分譲

**大阪モノレール彩都線延伸**  
 平成19年3月 阪大病院前~彩都西開業  
 残りの区間は彩都の整備状況をふまえて整備予定

**第二京阪道路**  
 平成15年 巨椋池~枚方東IC開通  
 平成21年度 枚方東IC~門真JCT開通予定

**JR高槻駅北東地区**  
 民間主導による複合機能都市整備  
 平成20年度 都市計画決定予定  
 平成22年4月 関西大学高槻キャンパス開校予定  
 ~平成28年度 区画整理事業による整備

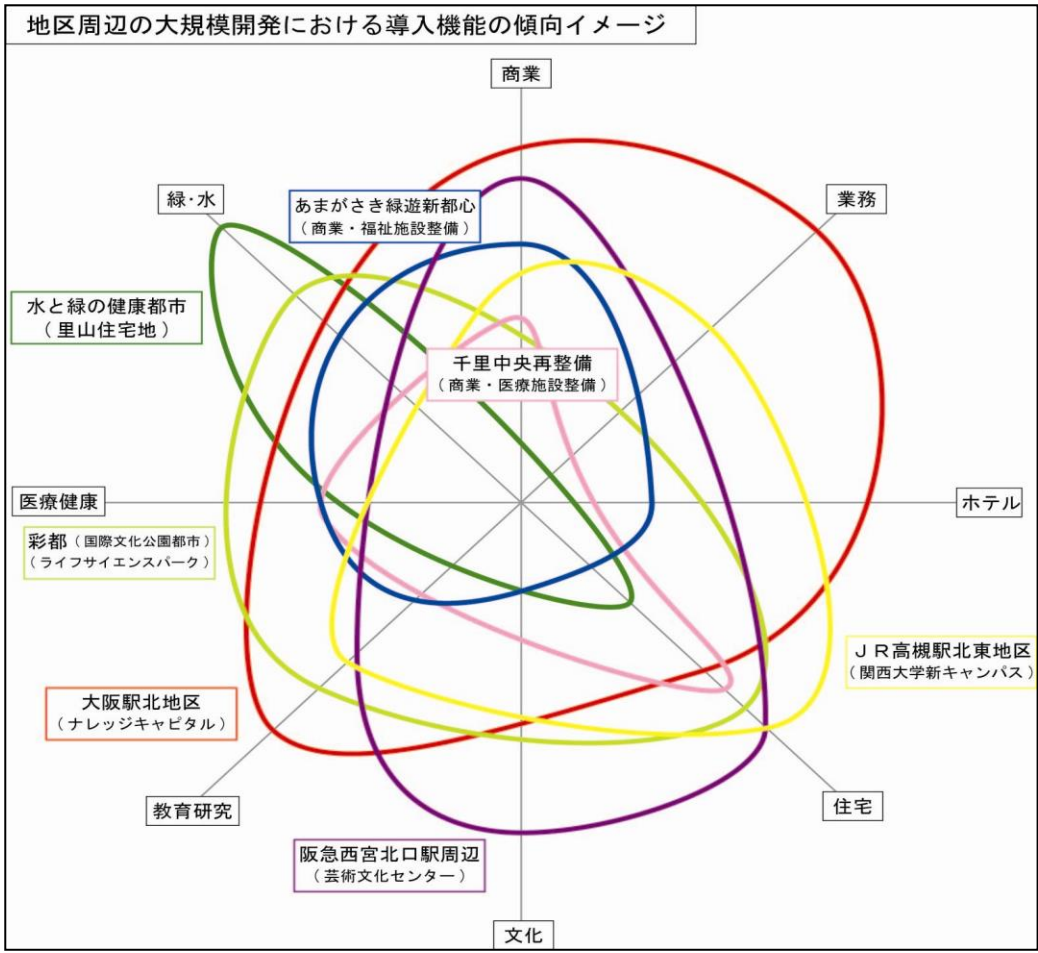
**大阪外環状線**  
 久宝寺~放出開業予定  
 平成20年春 放出~新大阪開業予定  
 平成24年春 (西吹田駅開業予定)

**大阪駅北地区(北ヤード)**  
 「ナレッジキャピタル」を核とした研究機能や商業  
 業務・文化・住宅からなる複合機能都市  
 平成22年4月 第1期まちづくり  
 (JR大阪駅改築や阪急百貨店建替え等も同時期)  
 第2期エリアの整備時期は現時点未定

**大阪市営地下鉄今里筋線**  
 平成18年12月 井高野~今里間開業  
 (当地区までの延伸を要望中)

**吹田操車場跡地地区**  
 吹田市





## 5. 都市整備課題と都市開発プロジェクト（周辺）

吹田操車場跡地の周辺市街地が抱える都市整備課題と、それに対応する様々な都市開発プロジェクトが実施されており、その内容について整理した。

周辺市街地における都市整備課題としては、交通を中心とした機能整備や鉄道高架等の機能拡張があり、淡路駅周辺地区や南千里丘地区のように、鉄道の新駅設置や高架化事業などの基盤整備事業を基本として、住宅や商業、公共公益施設の整備を図るものが挙げられる。

また、当初の市街地整備から約40年近くが経過する千里ニュータウンでは、中心部の再整備に加え、周辺部の団地における建替え更新を中心とした都市開発が行われており、これらは、今後も継続的に実施され、新たな市街地更新が進められることが考えられる。

さらに、産業構造の転換などを背景とした工業や放送局などの跡地化に伴う土地利用転換として、大日地区や毎日放送千里丘放送センター跡地といった大規模な商業施設整備や住宅整備を図るものがある。

吹田操車場跡地に隣接して、吹田市正雀下水処理場及び摂津市クリーンセンターがある。正雀下水処理場については、千里ニュータウンの下水処理を行う目的で整備されたが、下水処理場としてのあり方について、検討を行っている。







## IV. まちづくりの基本方向

### 1. 社会経済動向及び環境問題への対応

吹田操車場跡地の利用計画策定に際しては、現在の社会経済ニーズを的確にとらまえ、計画地の特性を活かしたまちづくりが求められている。特に以下に掲げる社会経済動向に対応することが重要である。

#### (1) 環境問題への対応

地球規模での環境問題への対応が求められている今日、計画地では環境に配慮したまちづくりはもちろんのこと、環境面における未来型まちづくりの実験の場としての取り組みを図ることとする。

#### (2) 安心・安全なまちづくり

安心して過ごすことができる安全なまちは、人々が日常生活を行う上での基本的要件であり、計画地においても多様な面で安心・安全に向けた施策を展開していくことが求められている。

具体的には、バリアフリーのまちづくりはもとより、地震をはじめとする災害への対応や、近年急増している犯罪の予防・抑止に向けた防犯システムの導入などを着実に実施していくこととする。

#### (3) 質の高い景観形成

潤いのある豊かな生活環境の創造及び個性的で活力ある地域社会の実現を図るために、良好な景観を形成することが求められており、計画地においても、次の100年を見据えた空間のデザイン等、質の高い景観の形成に取り組むものとする。

#### (4) 本格的な高齢社会への対応

わが国では、世界でも例をみない速度で高齢化が進展しており、平成26年（2014年）には総人口のおよそ4人に1人が65歳以上になると予測されている。

このため、大都市周辺部におけるまとまりのある貴重な開発用地である計画地においては、鉄道をはじめとする良好な交通条件を活かしながら、健康、医療、福祉などの高齢社会に対応した施設の導入を図ることとする。

#### (5) 少子化時代への対応

わが国の出生率は、晩婚化や本格的な女性の社会進出などの影響を受けて、先進国の中でも低い水準を示しており、今後さらに低下していくことが予測されている。

このため、大都市に直結する鉄道駅に近接した計画地においては、少子化時代に求められる生活支援施設や教育施設などの導入を図ることとする。

## (6) 都市再生の推進

都市の活力を蘇らせ、都市再生を実現するための都市基盤整備やまちづくりの展開が全国的な課題となっており、このような状況に対して、計画地においては、周辺の既存機能集積との連携のもとで、都市の活力の再生に資する施設導入を図ることとする。

## (7) ボーダレス社会への対応

経済の国際化や情報技術の進展によって、国境や地域といった境界（ボーダー）を超えた広域的な活動が急速に進展し、いわゆるボーダレス社会が到来している。

このような状況の中で、計画地においても地域の核となる施設に加えて、良好な交通条件などを活かした広域的な施設展開を図り、まちや都市の魅力・求心性などの向上をめざしていくこととする。

## (8) 多様多才社会への対応

年齢、性別、時間、場所にとらわれない生き方が可能となり、個人の夢が実現され、再挑戦ができる「多様多才社会」の実現が求められている。

このため計画地では、このような「多様多才社会」の実現に向けて、生涯学習などに対応する文化施設や、自然とふれあい・交流できる施設などの導入を図り、人々がいきいきと活動できるまちづくりを行うこととする。

## 2. 計画地の特性を活かしたまちづくり

吹田操車場跡地においては、吹田・摂津両市の既存ストックを活用しながら、吹田操車場跡地の特性を活かして魅力あるまちづくりをめざす。

### (1) 緑豊かなまちづくりをめざす

#### ■計画地の特性

現在の吹田操車場跡地には緑が少ないが、千里丘陵や万博記念公園、淀川水系の河川など、緑と水に関する資源は豊富に存在している。

計画地の南側には吹田貨物ターミナル駅（仮称）が隣接して立地するため、同駅との緩衝空間としての「緑の遊歩道」の設置が予定されている。



#### ■まちづくりの考え方

- ・まとまりのある緑を配置し、「地域における緑の拠点」を形成する。
- ・21世紀のまちづくりにおいては、これまで以上の環境配慮と、環境改善への具体的な取り組みが必要である。
- ・吹田貨物ターミナル駅（仮称）との境界部に帯状に「緑の遊歩道」（緑地帯や遊歩道）を設け、市民の憩いや健康増進の場とするとともに、大阪都市圏においても稀な鉄道沿線での緑の景観を創出する。

### (2) 立地の特性をいかす

#### ■計画地の特性

計画地は、JR東海道本線の3つの駅に近接し、大阪・新大阪の両駅から10分前後、京都、神戸から約30分の距離に位置する。

さらに、平成18年12月に開業した大阪市営地下鉄今里筋線を、井高野駅からJR岸辺駅・阪急正雀駅付近まで延伸するよう要望しており、これが実現すると吹田市・摂津市における大きな鉄道結節点となる。

また、計画地は国土の軸線上に位置し、かつて「東洋一の操車場」として日本の経済を支える物流拠点としての役割を担ってきた。操車場としての役割を終えた今、その広大な用地は、新たなまちづくりに活用できる貴重な用地となった。その形状は、延長3km、用地幅約150mと非常に細長い特徴を有している。



#### ■まちづくりの考え方

- ・良好な交通環境を生かし、北大阪のみならず広く関西圏を視野に入れた機能導入を検討する。
- ・一般的に細長い計画地の形状は、まとまりのある土地利用や効率的な基盤施設を配置する上では不利となるが、緑の遊歩道や建物などの都市景観や都市機能のつながりを大切にすることで特徴的な地形を最大限に活用した個性あるまちづくりを展開することが可能となる。
- ・さらに、前述のように計画地は鉄道駅に直結するまちであるとともに、その成り立ち自体が操車場跡地である歴史を有しており、鉄道をはじめとする交通を切り口にした機能導入の可能性についても検討を行う。
- ・細長い地形を活かして、地域全体が緑と水につつまれた快適性の高い空間づくりをめざす。

### (3) 周辺の機能集積をいかす

#### ■計画地の特性

計画地周辺の機能集積の特徴として、高度教育機関と高度医療機関があげられる。

高度教育機関としては、大阪大学をはじめとして関西大学や大阪学院大学、大阪人間科学大学など全国有数の集積を誇っている。これらの大学では、従来の研究領域に加え学際的な新たな領域、さらには今日的な課題に対して進化していくことが求められており、その時々  
の社会経済状況に応じて新たな機能・施設展開が必要となっている。

また、高度医療機関については、大阪大学附属病院や国立循環器病センターなどが周辺に  
集積しており、高度教育機関同様に常に新たな展開が期待される分野である。



#### ■まちづくりの考え方

- このような周辺の機能集積を活かして、計画地においてはこれら研究・教育や医療の新しい核となる施設誘致を検討するとともに、周辺での機能集積をサポートする関連機能・施設の導入をめざしていく。

### (4) 周辺地域の都市開発とのネットワーク形成

#### ■計画地の特性

計画地の周辺地域には、大阪駅北地区（北ヤード）や彩都（国際文化公園都市）をはじめとした大規模都市開発プロジェクトが実施中であり、それぞれ、ナレッジキャピタル（大阪駅北地区）、ライフサイエンスパーク（彩都）などをコアプロジェクトとして、特徴的な開発を行っている。近年の都市開発においては、こうした特徴的なコンセプトに基づく都市機能の導入や、機能複合により都市魅力を高め、持続的に維持運営していくまちづくりが必要である。



#### ■まちづくりの考え方

- 計画地においては、これら先行する大規模プロジェクトとの連携を図るとともに、独自のまちづくりを行うことにより北大阪地域における都市拠点の形成を図る。

## (5) 周辺市街地のまちづくりとの連携

### ■計画地の特性

計画地の南側では、貨物ターミナル駅の整備に加えて、JR 岸辺駅の橋上化や南北自由通路の整備といった駅周辺整備が予定されている。

また、計画地に隣接する摂津市域の吹田市正雀下水処理場及び摂津市クリーンセンターについては、機能廃止に向けて行政間で調整中である。

さらに、新駅設置や、工場跡地等における土地利用転換、千里ニュータウンの再生など様々な都市開発が行われている。

計画地に隣接する地区や周辺部との連携を図り、一体となったまちづくりを行う必要がある。



### ■まちづくりの考え方

- ・吹田市正雀下水処理場及び摂津市クリーンセンターについては、双方の用地を一体的に考えたまちづくりを推進するために、事業企画コンペ（平成20年度実施予定）実施の際に、平成25年度（2013年度）にその機能を廃止することを関係機関が明確にすることが望ましい。
- ・計画地に隣接して整備するJR 岸辺駅橋上駅舎や南北自由通路等の関連施設と一体的な計画に基づく施設整備を行う。
- ・周辺市街地の住環境の保全向上に寄与する都市景観の形成をめざす。

## (6) 持続可能なまちづくりをめざす

### ■計画地の特性

一時期に整備を行う開発手法では、事業が完了し実際にまちが機能してから生起する課題に対して、柔軟に対応することが困難であり、まちの再活性化の障害となっている状況が見られる。

また、様々な都市開発が各地で行われる中で、地域や都市の個性の創出や市民や来街者のニーズにきめ細かく対応する必要がある。

計画地には、隣接して関連整備の可能性が期待できるリザーブ用地（正雀下水処理場など）が存在する。



### ■まちづくりの考え方

- ・立地特性を考慮し、まちの熟成段階に応じたまちづくりを検討する。
- ・リザーブ用地といった、段階的な整備が可能なまちづくりの考え方を取り入れ、時代状況やここで生活する人のニーズにあわせたまちづくりを検討する。
- ・周辺の都市機能とも連携し、まちがそこに住まう人と調和しながら成熟していけるようなまちづくりをめざす。



### 3. 望まれる都市像

#### (1) 次の100年を見据えた未来型都市モデルをめざす

かつて、「東洋一の操車場のあるまち」と呼ばれ、時代をけん引する役割を果たした歴史を踏まえ、次の100年を見据えた都市及び環境づくりを行い、新たな都市のモデルとなるまちづくりをめざす。都市生活において自然環境との日常的共生を図り、地域経済、文化及び福祉が共存調和する持続可能な都市をめざす。

#### (2) 未来志向の新しい北摂文化の創造をめざす

これからの市民は、高まりつつある情報伝達技術を背景に、様々なコミュニケーションや豊かな感受性を持ちながら、新しい生活文化や地域コミュニティを創造していく必要がある。

まちづくりにはグローバル文化と地域文化の適切な融合が不可欠である。現状の北摂文化という地力を核に、遠隔地域の人々を引きつける未来志向の新しい北摂文化の創造をめざす。

#### (3) 北大阪の環境シンボルとなる豊かな緑と安心・安全な環境づくりをめざす

計画地全体が公園とを感じる様な豊かな緑に包まれた拠点形成を図ることにより、北大阪地域における環境シンボルとして内外に発信し、ユニバーサルデザインにより誰もが快適に利用できる都市をめざすとともに、「豊かな緑」と「防災防犯性」の両立した環境づくりをめざす。

#### (4) 五感で楽しむ変化に富んだ緑の空間形成をめざす

長大な計画地の形状を活かし、東西方向への緑の連続性の確保と、各ゾーンの特色を活かした、変化に富んだ緑の空間を連担させることにより、「見る」、「触れる」、「食す」など五感で楽しみながら、歩ける歩行者空間や施設と良好な景観の形成をめざす。

#### (5) 北大阪をけん引する高度な機能集積と高質な環境形成をめざす

府域レベルの上位計画、交通至便な立地特性、広大な用地及び周辺の高度医療・教育機能の集積状況により、北大阪地域におけるまちづくりの発展・けん引に貢献する新たな都市拠点として位置づけ、高度な機能の集積と質の高い環境を形成することにより、周辺市街地への波及をめざす。

#### (6) 市民の健康を育む疾病予防的健康増進施設の立地をめざす

加速する高齢化により、病気や介護の負担が極めて大きな社会になると考えられ、病気や介護に対する予防的取組みが求められる。市民の健康づくりをサポートする健康増進機能を中心にした拠点機能の形成をめざす。

#### (7) 研究教育機能と産学官プラス市民による協働交流施設の立地をめざす

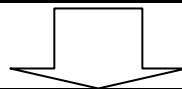
計画地周辺には、大阪大学や関西大学をはじめとした大学や、国立民族学博物館等の高度教育研究機関が集積立地し、これらを支える支援機能や高度化・専門化する関連機能の受け皿が求められている。研究教育機能の導入と産学官プラス市民による協働交流拠点の形成をめざす。

## 4. まちづくり基本方針

前章記述の上位計画、まちづくりの方向性より「まちづくり基本方針」を以下のように設定する。

吹田操車場跡地のまちづくり基本方針の設定

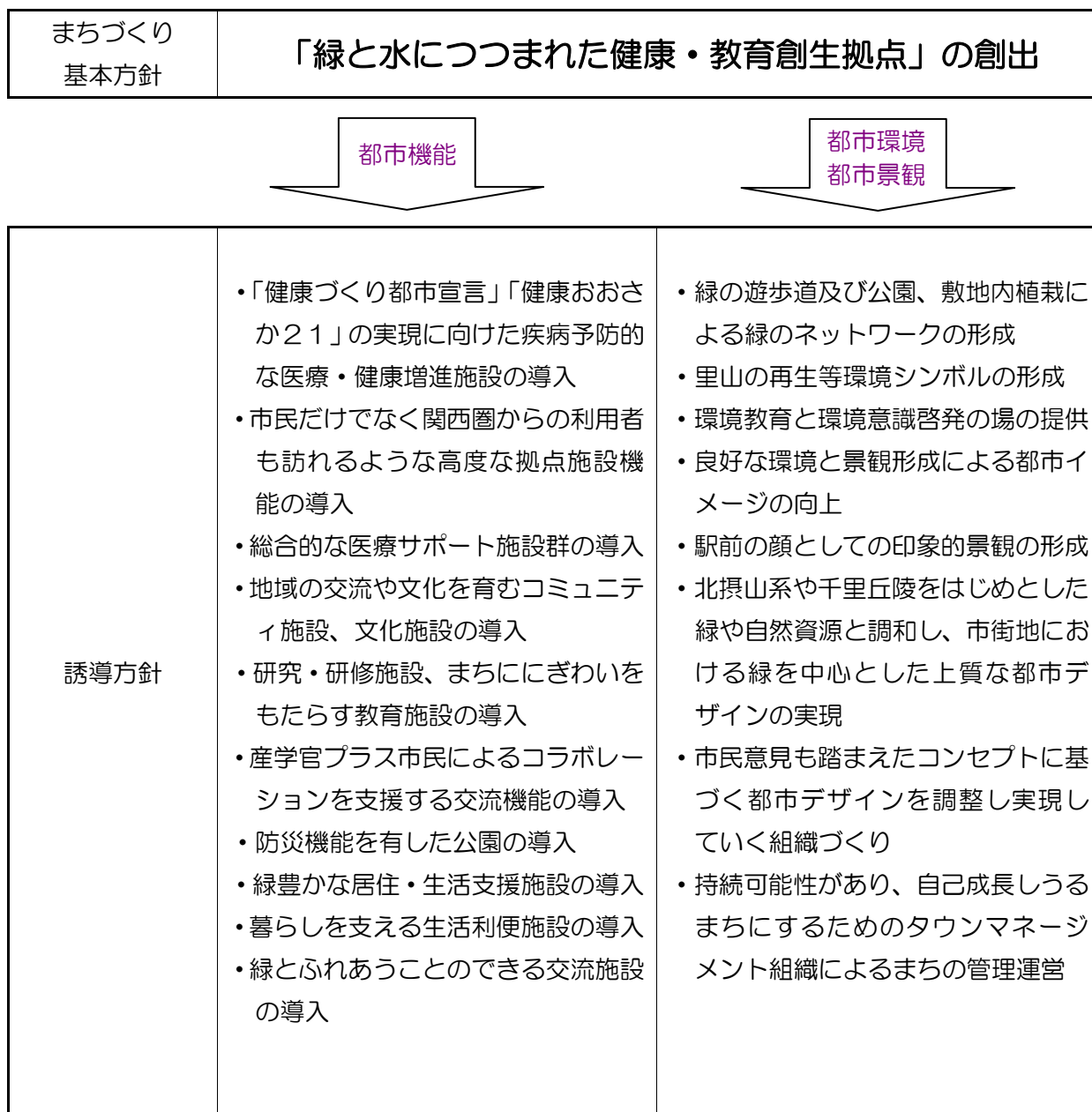
Ⅱ 関係する上位計画	都市計画	(大阪府)良好な市街地の形成を図る「都市拠点」 (吹田市)東部拠点形成 (摂津市)新たな都市拠点形成
	自然環境	(大阪府)循環型社会を目指した環境都市づくり、中央環状緑地群の形成 (吹田市)川の辺縁地拠点 (摂津市)地域を特徴づける緑地の配置
Ⅳ-1 社会経済動向及び環境問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題への対応</li> <li>・安心・安全なまちづくり</li> <li>・質の高い景観形成</li> <li>・本格的な高齢社会への対応（健康・医療・福祉施設等へのニーズ増大）</li> <li>・少子化時代への対応（生活支援施設の必要性や、私立大学における一貫教育施設整備など）</li> <li>・都市再生の推進</li> <li>・ボーダレス社会への対応</li> <li>・多様多才社会への対応</li> </ul>	
Ⅳ-2 計画地の特性を活かしたまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の分布は少ないものの、「中央環状緑地群」に位置し、万博記念公園や千里丘陵、正雀川や安威川等との緑と水のネットワークの形成の可能性</li> <li>・市域内だけでなく、広域からの集客を図ることが可能な立地環境</li> <li>・大阪市営地下鉄今里筋線の計画地までの延伸を要望</li> <li>・細長い用地</li> <li>・千里ニュータウンや万博記念公園をはじめとする計画地周辺での高度な教育研究施設や医療施設、環境施設等の集積</li> <li>・計画地周辺部におけるライフサイエンス（彩都）やナレッジキャピタル（大阪駅北地区）など、地域特性を出した大規模都市開発の進展</li> <li>・同時期に整備される貨物ターミナル駅をはじめ、JR岸辺駅の橋上化や南北自由通路の整備等の駅周辺整備事業</li> <li>・隣接する正雀下水処理場及びクリーンセンター用地の一体的利用</li> </ul>	
Ⅳ-3 望まれる都市像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の100年を見据えた未来型都市モデルをめざす</li> <li>・未来志向の新しい北摂文化の創造をめざす</li> <li>・北大阪の環境シンボルとなる豊かな緑と安心・安全な環境づくりをめざす</li> <li>・五感で楽しむ変化に富んだ緑の空間形成をめざす</li> <li>・北大阪をけん引する高度な機能集積と高質な環境形成をめざす</li> <li>・市民の健康を育む疾病予防的健康増進施設の立地をめざす</li> <li>・研究教育機能と産学官プラス市民による協働交流施設の立地をめざす</li> </ul>	



まちづくり基本方針	「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点」の創出
-----------	-------------------------

都市機能と都市環境・都市景観の導入を下記の方針によりはかるものとする。

## 導入機能及び環境形成誘導方針



## V. まとめ

当委員会は、吹田操車場跡地におけるまちづくりについて、様々な角度からその方向性やあり方について検討を行った。ここでは、その基本となる理念を示すものである。

吹田操車場跡地は、東西日本の結節点に位置する長さ3kmに及ぶ長大なまちづくり用地(拠点エリア)である。計画地の大きな特長は、都心への近接性と交通アクセシビリティの高さにある。すなわち、大阪京都間のJR東海道線の3駅(吹田、岸辺、千里丘)をつなぎ1km圏内に4つの私鉄駅を有する上に、新たに大阪市営地下鉄の延伸により、さらなる交通ネットワークの拡大が期待されており、鉄道アクセスにおける至便性が特徴的である。また、吹田インターチェンジまで約2kmという立地で、車によるサービスアクセス面からもすぐれた位置にある。

このような高い地域価値を有する用地において、更地(さらち)の状態から新規に開発に取り組めるケースは稀有のものであるだけに、この地の持つ潜在的ポテンシャルを最大限に引き出すような新しい都市の創出手法をとる必要があると考える。

計画地のまちづくりをコーディネートする上で留意すべき点は、周辺環境との連続性を大切にしつつ、長く連続した用地形状を活かし、平面的にも、空間的にも、機能的にも連続した意識の持てる、魅力あふれる環境デザインとすることである。さらには、人を中心に据えた眼差し(まなざし)で、「暮らし」「文化」「環境」をとらえ、美しく魅力ある持続可能なまちづくりを創出することが求められよう。

持続可能なまちづくりを計画するにあたっては、「場所のつながり」、「社会資源とのつながり」、「訪れ住まう人の暮らしとのつながり」、「都市と自然のつながり」、そして「地域と地球とのつながり」という「まちづくりの5つのつながり」を大切にしたい。

### (1) 場所のつながり

「場所のつながり」とは、この地の環境、地形などの場所特性を最大限に生かすことによって、人と自然、都市的機能等が連続性を持ったまちをイメージするものであり、ここにしかない魅力あふれる次世代市街地デザインを具現化することである。すなわち、緑、教育、健康、暮らしというテーマ性を持った各ブロックが、それぞれ独立して機能するのではなく、各ブロックが動線や景観などの都市デザインとともに、その機能が有機的に連携した「自律協調型」のまちとして形成されなければならない。その結果として、群景観としても美しいまちが周辺環境とも連続しつつ形成されなければならない。

### (2) 社会資源とのつながり

「社会資源とのつながり」とは、計画地の周辺に豊富に集積する知的社会資源との連携を図り、新たな「知」のクラスターを創出形成することを意味している。特に医療健康創生ゾーンに導入する機能について、周辺に存在する国家的な医療資源である、大阪大学医学部附属病院

と国立循環器病センターなどとの連携を図りながら、「いのち」「健康」というコンセプトを明確にすることが、社会的に望ましく地域特性を生かしたまちづくりに資する、とする考えである。具体的には、健康を創出し促進、さらにはデザインするための健康づくり拠点を創出するなど、市民、医療関係者、研究者、企業、行政の連携が図れるような産業交流の新たなプラットフォームの実現を図ることが求められている。

拠点エリア全体で、環境—健康—教育という機能的なつながりを持たせるためには、隣接する教育文化創生ゾーンや都市型居住ゾーン、また緑のふれあい交流創生ゾーンのあり方も「健康創生」「予防」という理念に基づいたものでなければならない。それには、医療や健康に関する人材や医療関係者（最先端医療技術を支える専門技術者や看護師など）の専門的教育機関である人材育成拠点や、市民を対象とした保健医療教育機関など、医療系の教育研修育成コンプレックスの設置などが考えられる。

医療に関する産業拠点を創出する動きは、「京都バイオシティ構想」、関西文化学研都市の「メディカルコンプレックス構想」、大阪駅北地区の「ナレッジキャピタル」、「神戸医療産業都市構想」などで進められているが、計画地に創生、誘致すべき機能と形態については、健康と予防をキーワードとしたランドデザインにより、広域的な位置づけを明確にする必要がある。

### （３）訪れ住まう人の暮らしとのつながり

「訪れ住まう人の暮らしとのつながり」とは、そこに住まう、そこを訪れるひとの総体を視野に入れて、都市の機能更新事業という従来の視点にとどまらない「暮らし」「文化」と「街づくり」とが複合した「まちづくり」を意味するものである。

わが国初の大規模な計画的都市である千里ニュータウンの開発から50年弱が経過したが、その間に蓄積された知見を、この地での新たなまちづくりにおいて生かし、まちが持続的に営まれる過程における、そこに暮らす人を中心としたまちづくりのあり方を検討することが必要である。この都市(まち)で、信頼と規範を備えたネットワークに育まれる豊かなコミュニティの醸成を促進し、また阻害しないような都市機能の導入と配置のあり方を、時間軸を念頭におきながら今後の事業コンペを実施し、もって持続可能なまちづくりの具体像を発信することを期待するものである。

### （４）都市と自然のつながり

「都市と自然のつながり」とは、都市の中に自然を配するのではなく、自然の再生を基本に都市をデザインする、という発想である。この地は、千里丘陵の縁辺に位置し、かつて豊かな緑と多くのため池を持つ田園地帯であった。このような地域特性を踏まえると、市民にとって、地域にとって、地球環境にとって、この地で求められる望ましいカタチの緑環境のあり方が再考されねばならない。さらには、都市生活の裏で流れるもうひとつの河川である下水道の処理水を高度処理することで水源とし、各エリアを連ねるせせらぎと、それにつながるため池による大胆な「水面の再生」を実現し、環境エネルギーの面から、また景観面からも優れ、都市市



民の感性に応答する環境を創出するという発想が可能となる。

これにより、新たに出現する都市は、あたかも埋もれていた大地の環境を再生するかのよう  
に、この地の持つ歴史を踏まえた自然とつながることができる。また、北摂山系からの流出水  
と直交する形で東西方向に位置するこの地において、地下に雨水一時保留施設を設け、地表に  
おいては雨水の地下浸透を図るなど、かつての自然保水能力を復元することで都市防災機能を  
高め、今後の気候変動に備えるということも考えたい。

### （５）地域と地球とのつながり

最後に「地域と地球とのつながり」とは、自然環境の再生にとどまらず、環境と経済の共生・  
統合を実現するような環境配慮への知恵、技術を総合化した次代にふさわしい環境都市を実現  
することで、地域から地球環境問題に取り組むことを意味するものである。

ここでのまちづくりにおいては、導入する機能の如何にかかわらず、二酸化炭素排出量の削  
減、大気汚染の防止、ヒートアイランド対策、景観への配慮などを図るための総合的な取組を  
実現することを提案したい。

平成17年（2005年）2月に、京都議定書が発効し地球温暖化防止の取組が公式に国際  
ルールとなった。わが国が本議定書の約束を達成するためには、一人ひとりの日常的な行動と、  
地域の新たな取組みのさらなる積み重ねが必要である。この計画地におけるまちづくりは、  
我々が築くべき脱温暖化社会とは具体的にどのようなものなのか、「環境の国づくり」に資する  
具体像を提示することが求められている。

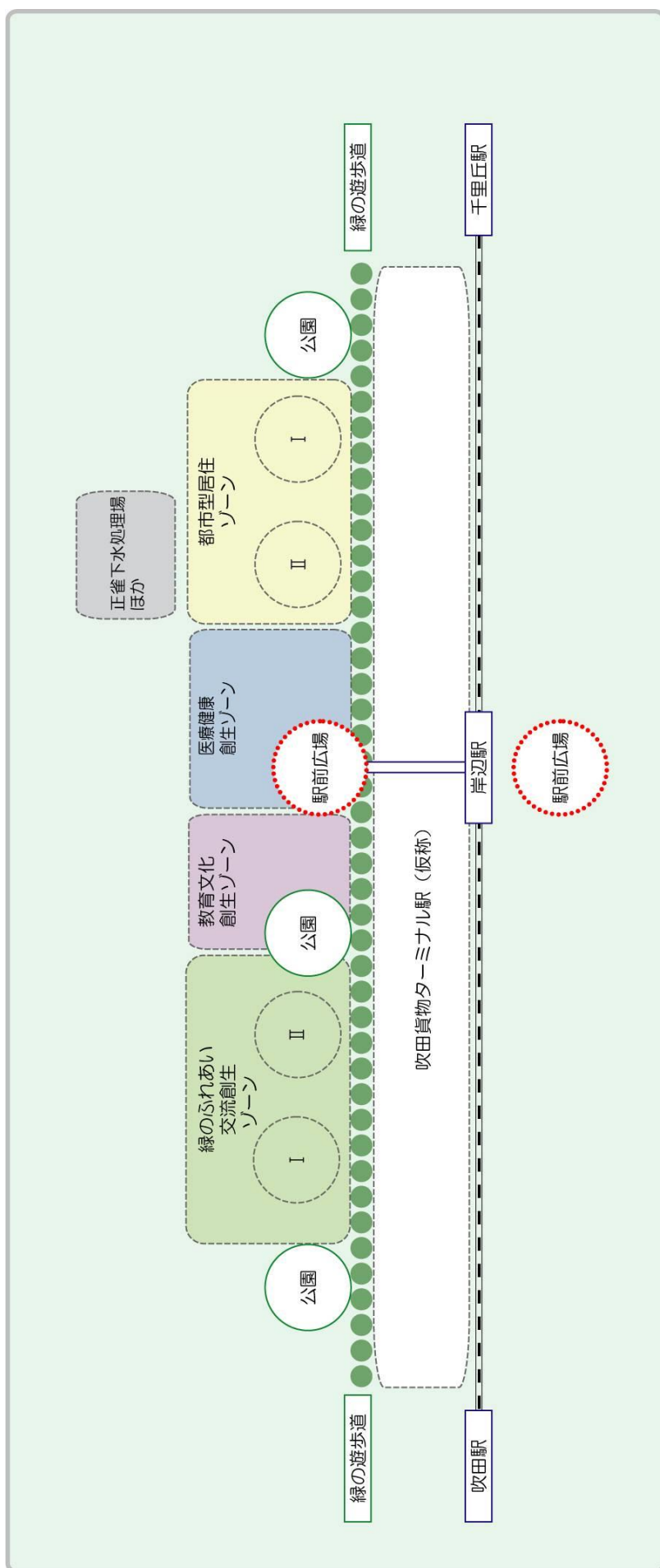
また、新たに吹田操車場跡地に創出される緑は、万博公園等の既成のまとまった緑地とつな  
がり、北摂山系の緑とつらなって、“緑の帯、グリーンベルト”を形成することになろう。

緑と水に包まれた暮らしの風景を思い描き、ソフト面やライフスタイルにおいても本質的な  
視点から環境への持続的な取組みにシフトし、吹田操車場跡地を核として、新たな“環境都市”  
の実現をイメージしたい。

### （６）最後に

吹田操車場の跡地においては、以上の理念によりまとめた本全体構想に基づき、「緑と水に  
つつまれた健康・教育創生拠点」として市民の誇りとなるような美しく豊かなまちが創出され  
ること、そしてそれが時を経て熟成していくことを望むものである。

## まちづくりの概念図



緑と水につつまれた健康・教育創生拠点

### 導入機能誘導方針

<b>緑のふれあい交流創生ゾーン(Ⅰ)</b> 新たに生み出すまとまった緑の空間	緑とふれあうことのできる交流施設の導入
<b>緑のふれあい交流創生ゾーン(Ⅱ)</b> 緑を中心とした市民の生活交流空間	緑豊かな居住・生活支援施設の導入 緑とふれあうことのできる交流施設の導入
<b>教育文化創生ゾーン</b> だれでもいつでも学べる教育・研究の中核的な拠点	研究・研修施設、まちににぎわいをもたらす教育施設の導入 産学官プラス市民によるコラボレーションを支援する交流機能の導入 地域の交流や文化を育むコミュニティ施設、文化施設の導入
<b>医療健康創生ゾーン</b> 市民の健康をサポートする中核的な拠点	疾病予防的な医療・健康増進施設の導入 総合的な医療サポート施設群の導入 緑豊かな居住・生活支援施設の導入
<b>都市型居住ゾーン(Ⅰ)</b> 憩いと安らぎの生活交流空間	防災機能を有した公園の導入 市民の憩いの場となる交流施設の導入
<b>都市型居住ゾーン(Ⅱ)</b> 駅近接の利便性を活かした都市型居住空間	緑豊かな都市型居住施設の導入 育児・福祉などの生活支援施設の導入 暮らしを支える生活利便施設の導入
<b>緑の遊歩道</b>	豊かでボリューム感のある緑の連続空間 楽しみながら距離を感じさせない健康増進空間 まちの持つコンセプトを周辺地域に発信する
<b>JR岸辺駅前の整備</b>	まちの顔となる北駅前広場の整備 まちのイメージを表現する駅周辺部の景観形成 緑のネットワークの中心となる緑豊かな空間整備 JR岸辺駅の橋上化と南北自由通路の整備 南駅前広場の改修

### 環境形成誘導方針

緑の遊歩道及び公園、敷地内植栽による緑のネットワーク形成
里山の再生等環境シンボルの形成
環境教育と環境意識啓発の場の提供
良好な環境と景観形成による都市イメージの向上
駅前の顔としての印象的景観の形成
周辺市街地との調和に配慮した都市デザインの実現

(資料編) 吹田操車場跡地まちづくり促進協議会での検討内容

1. 名簿

委員	吹田商工会議所 会頭	夜久 亢 宥
	吹田市医師会 会長	小 谷 泰
	摂津市商工会 会長	和 泉 慎 次
	摂津市医師会 会長	黒 本 成 人
	関西電力 支配人	中 村 實 夫
	大阪ガス近畿圏部 部長	吉 岡 亨
	NTT 西日本第1ソリューション営業部 部長	山 口 泰 範
	JR 西日本総合企画本部 部長	荻 野 浩 平
	阪急電鉄 常務取締役	島 田 隆 史
	毎日放送 常務取締役	上 田 修
	国土交通省近畿地方整備局建政部 部長	坂 真 哉
	大阪府住宅まちづくり部 理事	沢 田 吉 和
	吹田市副市長	富 田 雄 二
	摂津市副市長	小 野 吉 孝
アドバイザー	大阪大学大学院医学系研究科 教授	武 田 裕
	関西大学環境都市工学部 教授	楠 見 晴 重
オブザーバー	都市再生機構西日本支社 副支社長	桑 原 憲 雄
	鉄道建設・運輸施設整備支援機構 国鉄清算事業本部西日本支社 次長	高 木 良 範
	日本貨物鉄道関西支社 副支社長	萩 原 正 之

(旧委員)

下野 英世 (摂津市医師会 会長) 平成 19 年 (2007 年) 3 月 31 日まで

井上 章 (大阪府住宅まちづくり部 理事) 平成 19 年 (2007 年) 3 月 31 日まで

2. 開催経過

第1回 平成 18 年 (2006 年) 12 月 1 日 (金) 14:00-15:30 ホテル阪急エキスポパーク  
内 容: 会長の選出/今後の進め方の説明/「吹田操車場跡地のまちづくり概要」の説明/意見交換

第2回 平成 19 年 (2007 年) 1 月 17 日 (水) 14:00-16:00 メイシアター レセプションホール  
内 容: 「吹田操車場跡地まちづくり全体構想 (素案)」について/吹田操車場跡地まちづくり整備事業のスケジュールについて

第3回 平成 19 年 (2007 年) 4 月 25 日 (水) 14:00-15:30 吹田商工会議所会議室  
内 容: 吹田操車場跡地まちづくり計画委員会設置要項の変更について/前回以降の経過報告/「吹田操車場跡地まちづくり全体構想 (素案)」について/正雀下水処理場の今後について

### 3. 検討内容

#### (1) 第1回促進協議会 意見の要旨

「吹田操車場跡地まちづくり全体構想（素案）」について

##### ①吹田操車場跡地地区の位置づけに関する意見

- ・100年先を見据えた持続可能な新しいまちとして、高度な機能集積や高質な緑に包まれた空間であることが重要である。
- ・周辺開発プロジェクトが担う役割を踏まえ、地域ネットワークの中で、当地区がどういう役割分担なのかを明確にさせることが重要である。

##### ②いまのまちづくりに求められているものに関する意見

- ・未来指向のまちづくりで、緑を中心に考えるのは当然であり、もう一步インパクトが必要である。具体的な環境改善への取り組みや、ソフト面を重視した安心・安全なまちづくりなどが求められている。
- ・行政区分等の垣根を越え、「産官民」の連携や安心・安全なまちづくりの実現により、まちの付加価値を高めていくことが求められている。

##### ③吹田操車場跡地のまちづくりの全体像に関する意見

- ・縄文の森や里山、桜並木などに囲まれた、「森の中の高機能空間」づくりという都市イメージがある。
- ・まず、緑を中心とした環境づくりを考え、緑の遊歩道と連携した公園を整備し、スポーツ・レクリエーション機能や防災機能も盛り込みたい。

##### ④周辺地域との関係性に関する意見

- ・隣接する正雀下水処理場及びクリーンセンターに関する取扱いが一番の問題と認識している。これらの機能廃止も含めた土地利用のあり方について、関係機関との協議調整を含め、このまちづくりと併せた検討が必要である。
- ・将来の都市計画決定に向けては、当該地区のみでなく、隣接・近接市街地との関連性や防災拠点の配置等、都市レベルにおいて当該地区の位置づけを整理する必要がある。

##### ⑤導入機能に関する需要把握や事業性の検証の必要性に関する意見

- ・導入機能に関して、ランニングコストまで含めた事業性の検討が重要である。
- ・当地区に導入する都市機能が対象とするターゲットの地理的特性や年齢性別特性を整理し、メインターゲットの設定が必要である。

##### ⑥吹田操車場跡地の特徴づけ・導入機能に関する意見

- ・大学のキャンパス移動等は考えにくく、大学と市民、企業の新たなコラボレーションの拠点として位置づけるような考え方ができるのではないか。
- ・高度な医療機関を除けば、地区内に一般の病院や医療施設の整備は不要で、健康増進や



疾病予防を主眼とした施設構成を図るべきである。

- 教育や医療健康に関する導入機能に関して、相互利用が図られる形態が最も有効的である。
- 緑の遊歩道についても、健康づくりの拠点として捉えて欲しい。
- 緑の遊歩道に歩いた距離が判る距離標を設置したり、健康運動器具の設置、休憩機能を兼ねた運動施設、温泉の活用など、遊び感覚で健康づくりに取り組める場所ができるのではないか。
- 運動場等も企業グラウンドを中心にかなり減っているので、運動機能の確保も必要である。
- 健康や静かな住環境の確保という視点からは、グリーンベルトとしての緑の遊歩道の高さを確保し、貨物駅とまちとの緩衝性を高める工夫が必要ではないか。
- 緑や環境を重視する場合に、駅を降りたときにぱっ、と広がるような景観づくりも重要である。

#### ⑦地域資源の活用に関する意見

- 近隣の大学や有数の文化・学術研究機関が集積するポテンシャルを最大限に活かした計画づくりが必要である。
- この土地には、国土軸に沿った貨物輸送拠点として、大阪圏の市民活動を支えてきた歴史があり、この歴史性を活かした計画になることを期待している。

#### ⑧まちのつくり方に関する意見

- 公園をつくる場合でも、作り方によっては、夜は怖くて誰も寄り付かない場合がある。ハードだけでなくソフト面に配慮したまちづくりが必要である。

### (2) 第2回促進協議会 意見の要旨

「吹田操車場跡地まちづくり全体構想（素案）」について

#### ①まちづくり基本方針に関する意見

- 構想にバリアフリーの言葉が見られない。
- このまちを「休むまち（住宅中心）にするのか」「動くまち（企業や学校など）にするのか」という観点から考える必要がある。
- かつての研究都市（つくばやけいはんな）と近年の都市開発は異なり、研究拠点が都市に回帰し、様々な産業との連携や、居住空間との近接性がまちの魅力になる。
- 教育機能だけではなく、遠くから人が来るような賑わいの表現を入れてもよいのではないか。
- 「緑と水につつまれた」とあるが、水の表現があまりなされていない。

#### ②基盤整備に関する意見

- 公共側としては、道路等の基盤整備やそれに応じた容積率等の考え方を明確にした上で、

民間事業者等に上物整備のアイデアに関するコンペをしなければ、民間事業者の進出意欲を喚起するまでに至らないのではないかと懸念している。よって、コンペを実施するためには、基盤整備等前提条件を整理することが必要である。

- 地区周辺部における基盤整備には部分的な改修から取り組まざるを得ない。
- 周辺道路の整備に課題を抱えおり、当地区のまちづくりに関しては、自動車の発生集中量を極力抑え、電車など公共交通機関利用を主体としたまちづくりを目指したい。

### ③都市計画に関する意見

- 都市計画の容積率は、広域的な観点から上物整備と基盤整備のバランスを保てるよう定まっているものであり、土地利用を変えるから、即容積率を変えられるような単純なものではなく、上物と基盤整備のバランスの観点が重要である。よって、都市開発を検討する際には、都市計画の観点からも、基盤整備や上物整備の内容に応じた発生交通量等を十分勘案し、容積率を検討する必要がある。
- 当地区における容積率の設定については、この10年議論してきた内容もあるので、吹田・摂津両市で、改めて基本的な議論を行うことが必要だ。
- 基盤整備と上物整備の骨格を決めていくためには、発生の原単位を決めた上で議論をしないと、両方のバランスがとれた計画にならない。
- 事業そのものは相当に時間がかかる。基盤整備の進み方や整備についても、全部が整わなければまちづくりができないというわけではなく、整備の熟度を考えながら進めていけば良い。

### ④吹田操車場跡地の特徴づけ・導入機能に関する意見

- 障害者のための施設機能や拠点機能の導入を盛り込めないか
- 公園の緑は概念としては良いが、夜間の犯罪の懸念もあり、防犯面への対処も議論が必要。
- 導入を予定する健康、教育、医療といった機能とも関連する可能性が高い緑について、テーマ性が求められる。
- 水は必要なアイテムであるが、安全面に配慮する必要がある。

#### • アドバイザーからの吹田操車場跡地に関する提案①

⇒「医療健康創生ゾーン」「教育文化創生ゾーン」を統合した都市機能構成の提案

⇒提案1：ヘルス・クリエーション・パーク（市民を対象とした健康づくりの拠点）

⇒提案2：教育研修育成コンプレックス（未来の人材や医療関係者を対象とした人材育成の拠点）

⇒提案3：新連携コンプレックス（産学連携だけでなく、市民も関わる産業交流の拠点）

⇒広域的な位置づけとしても、当地区は京都や大阪、神戸、彩都などとも近接し、へその位置にあるため、これらのネットワークを補完し、活用できるもの

を健康、医療、介護を中心に位置付けたいと考えている。

- アドバイザーからの吹田操車場跡地に関する提案②
  - ⇒地下水を利用した環境共生および省エネルギー型蓄熱システムの提案
  - ⇒当地区全体的に適用可能性のある、環境負荷（電力や CO2）を低減する建物設備システム
  - ⇒年間を通して安定的な温度分布となっている地下水を活用し、夏場の冷房排熱を地下に蓄熱し、その熱を冬場の暖房に活用することにより、電力消費量を削減する。
- 上記の2つの具体的な提案は、非常に面白く伺ったが、後は熟度を上げていくことが必要だと思う。

#### ⑤ エントリーコンペ・事業スケジュールに関する意見

- エントリーコンペというと、具体的に事業者登録を行うというイメージがあり、まだ時期としては早く、平成19年度のコンペは、個人的なアイデア募集を行う程度に留めてよいのではないかと思う。大阪駅北地区では国際コンペを実施し、アイデア募集を行ったこともある。
- コンペの時期について、平成19年度のエントリーコンペや事業企画コンペが平成20年度とされているが、まちびらき時期が平成23年度であり、この時に事業者着手となっているので、平成20年度の開催はスケジュールとして厳しいのではないか。
- テナントとしては、入居時期が平成27年ごろとかなり先になることが予想されるが、早くても3年前位でないと、入居の判断はできないと考えられる。そのため、エントリーコンペという形で、19年度に入居者を絞り込んでしまうのは早すぎる。
- (平成19年度のコンペは) プロジェクトのPRや民間からのアイデアを大きく展開し、広く周知させることが先である。

### (3) 第3回促進協議会 意見の要旨

「正雀下水処理場及びクリーンセンターの今後のあり方」について

#### ① 行政からの意見

(吹田市)

- 正雀下水処理場及びクリーンセンターの今後については、両施設の用地4.5haを活用することが、吹田操車場跡地のまちづくりをより有効に進めることに資する、との吹田摂津両市の認識が一致した上で着工合意に至ったという経緯がある。
- 行政間において下水道行政上の技術的な検討と事務的な手続きが必要であるが、事業コンペを実施する時期までには、正雀下水処理場の廃止についての考え方を互いに確認する必要がある、吹田市としては平成23年に完成する駅前整備の2年後を目処に機能廃止をめざす。

(摂津市)

- 下水道普及率の向上により摂津市のクリーンセンターは一定の役割を果たしてきた。隣

接する都市型居住ゾーンと整合を図る土地利用を目指すため、吹田市と協調して機能廃止に向けて事務手続きを進めてまいりたい。

(大阪府)

- 両施設が移転した場合の 4.5ha のあり方を議論すべきで、現段階でスケジュールを想定した議論をするのは時期尚早ではないか。今後、行政間のコミュニケーションを密にして不確定要素を整理する必要がある。

## ②各委員からの意見

- 両処理場がどんな方向になれば全体構想と調和するのか、が大きな課題である。
- 廃止時期をある程度明確にしてもらわないと、事業者としてはプランを立てようがない。
- 23ha と 4.5ha を一体として、両市に求められるニーズに合わせた新しいまちをつくるという考え方を確認したい。
- 一体として考えるなら、現在予定している都市型居住ゾーンを 4.5ha に設定し、新たに医療機関等の公共的施設を駅側に置くという発想も可能となる。
- 廃止の時期は現段階では棚上げしておくことは止むを得ないが、構想には一体のまちづくりという考え方を位置づけておくべきである。



